

公益社団法人 日本造園学会関東支部

第20回学生デザインワークショップ

# SUMMER STUDIO 2025

2025  
8/16-31  
REPORT

「もしも」から描く朝霞の風景  
仮説するデザイン



# 開催概要

## スケジュール

8/16(土) キックオフミーティング @ 日建設計竹橋オフィス

○ガイダンス

日本造園学会関東支部 木下剛支部長 挨拶

課題説明、参加者自己紹介、スケジュール説明

○朝霞市に関する情報提供

松岡里奈

朝霞市 都市建設部長

「朝霞市について」

○ゲストより話題提供

大藪善久

株式会社 SOCI

熊谷玄

株式会社 スタジオ ゲンクマガイ

福島秀哉

株式会社 上條・福島都市設計事務所

○グループワーク

役割分担、仮説の方針議論

8/17(日)~8/22(金) チームワーキング期間

○グループごとにワークショップに向けた準備作業

8/23(土) コアワーキング① @ 日建設計竹橋オフィス

○クリティーク

タイトル、立てた仮説と背景、

仮説を基にデザインする対象地の選定理由、デザインの方針

8/24(日) 中間発表 @ 朝霞市産業文化センターギャラリー

○敷地調査

○クリティーク

デザインの方針

(ダイアグラム /plan + section/ ラフスケッチ等ビジュアライズ)

8/25(月)~8/29(金) チームワーキング期間

○グループごとに案の検討、資料作成

8/30(日) コアワーキング② @ 日建設計竹橋オフィス

○講評会に向けた発表資料作成

8/31(土) 講評会 @ 朝霞市中央公民館ホール +ZOOM

○クリティーク・懇親会

講評者：キックオフミーティングのゲスト

大藪善久、熊谷玄、福島秀哉

+ 朝霞市都市建設部長 松岡里奈

+ 日本造園学会関東支部長 木下剛

11月下旬 まとめ本発行

# 目次

## ● 概要

開催概要・目次

P1

ワークショップのテーマ・対象地

P3

## ● 各チーム提案

Aチーム ひたる あさか

P5

Bチーム あらかわ サーキュラービレッジ

P11

Cチーム 2055 空飛ぶ!! 物流拠点のまち：朝霞

P17

Dチーム まち全体を「ホーム」に！

P23

Eチーム アサカ、クロメク

P29

## ● ゲスト総評

P35

## ● 活動記録

活動写真

P37

協賛後援団体紹介

P42

# 仮説するデザイン 「もしも」から描く朝霞の風景

## テーマ

### 大テーマ：仮設するデザイン

AIの驚異的な進歩によってシンギュラリティが間近となり、5年前には想像し得なかった未来が現実化しています。こうした変化の中では、現在の社会課題や環境問題だけではなく、「未来の変化を先取りし敏感に捉える力」が一層求められます。

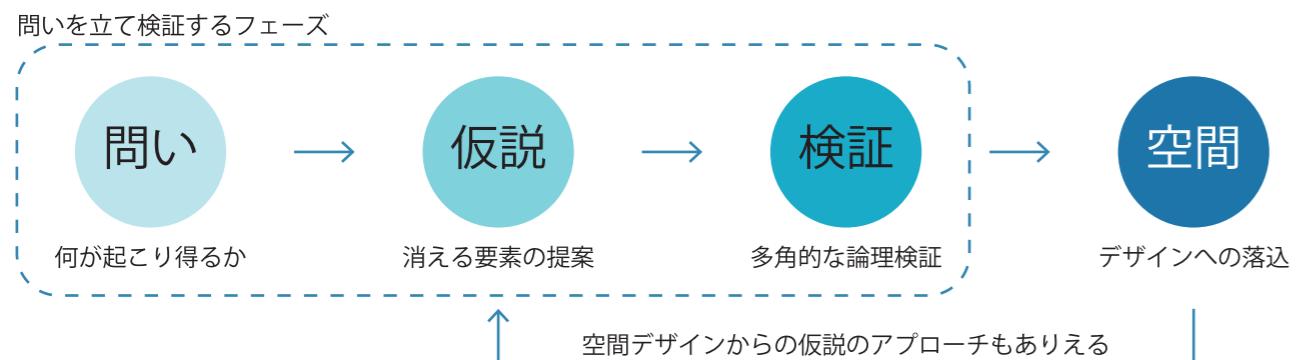
そこで本WSでは、「何が起こり得るか」という問いを立て条件を自ら設定し、空間にまで落とし込むことを目指して「仮説するデザイン」を大テーマに掲げました。今後の社会や敷地において無くなっていく、あるいは無くなった方がよい要素を提案し、様々な情報を多角的に検証し一定の論理性をもって仮説を立てることを出発点とします。

「何が消えるか」を考えることで逆説的に「何が残るか」を別の角度から探る試みになると考え、今回のテーマにより地形・川・大地など、ランドスケープがよりどころとしている要素が浮かび上がってくるのではないかと想像しています。

極論であっても論理的に破綻していなければ、敷地に対する大きな改変を肯定する課題設定となっており、ランドスケープアーキテクトのタイムスケールや空間スケールの広さを体感できるWSを目指しています。

### 2025年テーマ：「もしも」から描く朝霞の風景

都心部から近く、2050年まで人口が増加すると予測されている朝霞市。南西に広がる武蔵野台地の突端に位置する朝霞市には、緑・水・人が集まりつながっています。そんな朝霞市を対象地とし、大テーマである仮説をもって「もしも」から描く風景をデザインしてください。



## 目的

### ①提案力向上

様々な分野の学生が垣根を超えた議論を行いつつ、様々な専門領域を持つゲストからの話題提供を含め幅広い知見を集約・咀嚼し、具体的な空間や仕組みに落とし込んだ提案を発信します。

### ②グループワークの経験

学生は班員や社会人チューターと議論しながらテーマに取り組み、他人と協働することの楽しさ・難しさに触れ、切磋琢磨しながら一人では辿り着けない提案にまで深化させていく過程を体験します。

### ③人材育成

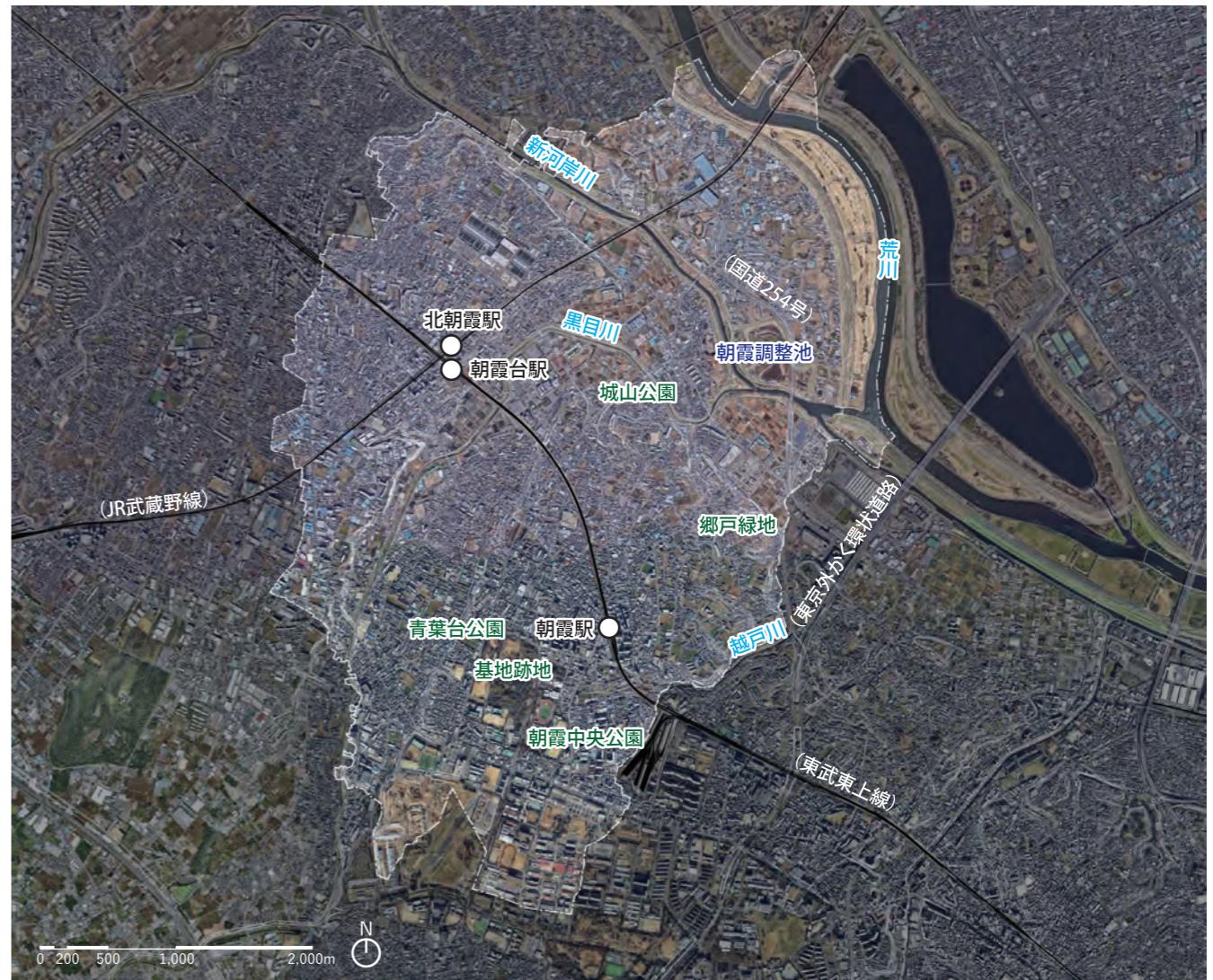
他者に敬意をもって接し、社会課題に幅広い視野を持った将来を担う人材育成の場とします。

## 対象地

### 埼玉県朝霞市

本ワークショップは朝霞市にご後援いただき、開催いたしました。

埼玉県の南西部に位置する朝霞市は、都心から約20kmの良好なアクセスを活かしたベットタウンとして発展してきました。武蔵野台地の北崖線に位置しており、北東部の低地部（荒川低地）とそれに面した台地（武蔵野台地）に大別されます。4つの河川（黒目川、新河岸川、荒川、越戸川）が流れおり、起伏にとんだ地形を形成しています。



### 主要な3つのエリア

- 朝霞の森や基地跡地等がある台地エリア
- 城山公園や黒目川等がある河岸段丘エリア
- 朝霞調整池や河畔緑地がある荒川低湿地エリア

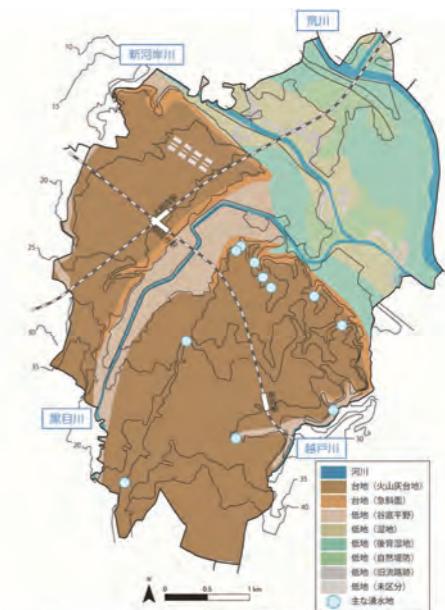


図 朝霞市の地形・水系  
(朝霞市みどりの基本計画(平成28年3月改訂版))

# A

#ひとり  
#日常の再考



雨宮 菜々子  
お茶の水女子大学  
人間・環境科学科 B4



小島 由聖  
千葉大学  
緑地環境学科 B4



宇野 瑞希  
東京農業大学大学院  
造園科学科 M1



谷内 翔太  
茨城大学大学院  
農学研究科 M1



北井 宏佳  
東京理科大学大学院  
建築学専攻 M2



松野 祐太  
小野寺康都市設計事務所

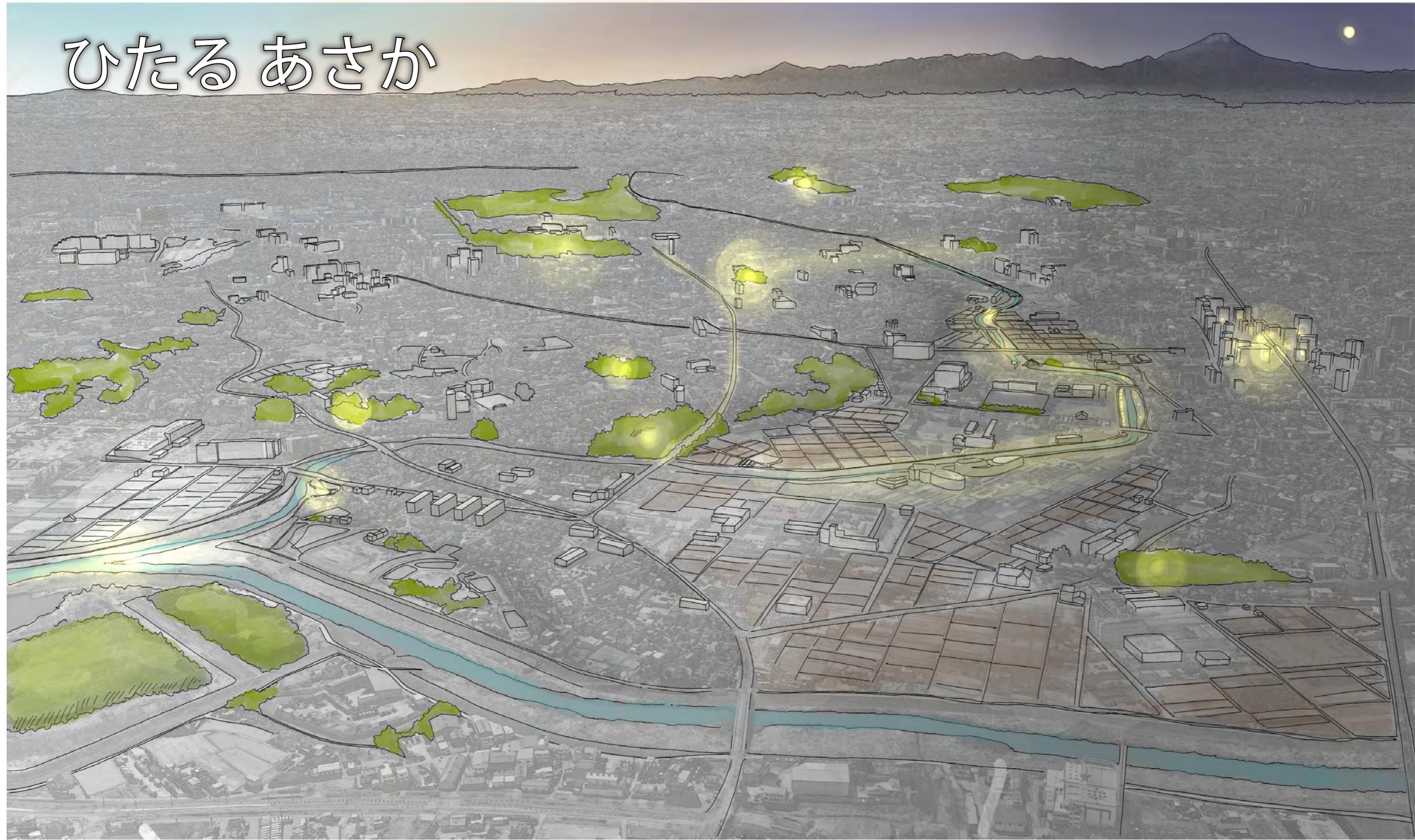


中馬 啓太  
chUma architect &  
associates



本田 亮吾  
オンラインサイト計画設計事務所

## ひたるあさか



概要

A team

B team

C team

D team

E team

ゲスト講評

活動記録

## SURVEY 朝霞市の現状と予想される社会構造

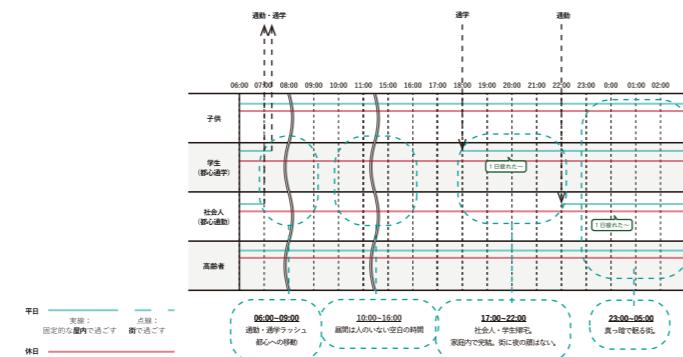
想定する未来での社会構造の変化

20XX年

### ITの発展

#### ①仮想空間の発展

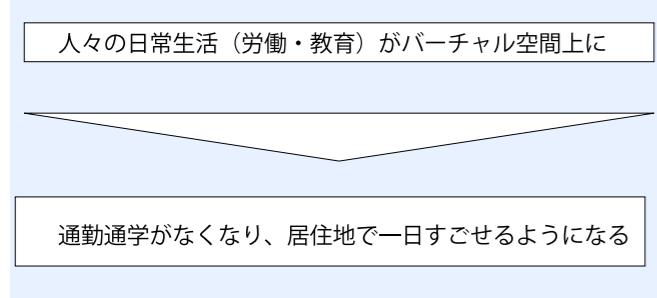
技術要素の進化と、社会的なニーズの高まりを機に、多くの一般ユーザーがメタバースに興味を示す。メタバース状で提供されるサービスの充実により、メタバースが一気に人々の生活に普及。要素技術が一通り成熟し、老若男女問わず多くの人々が当たり前にメタバース空間で活動。



#### ②アバターの発展 ムーンショット計画を進行中

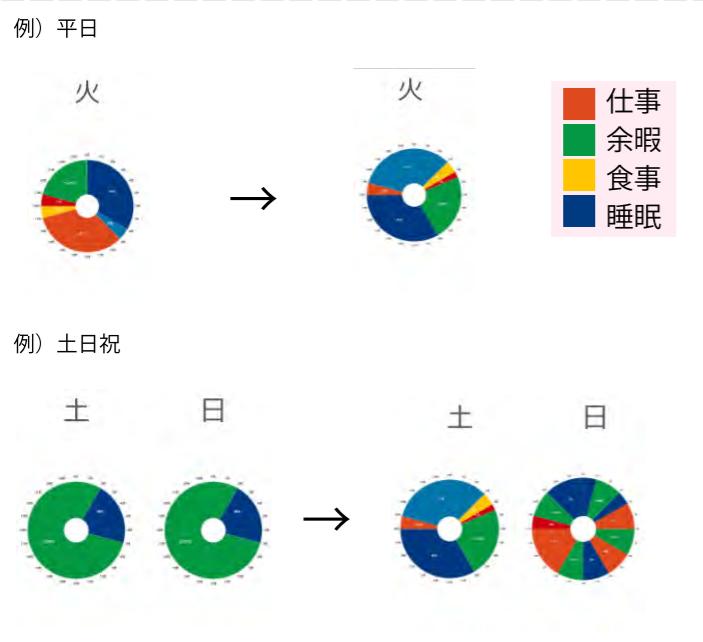
2050年までに、望む人は誰でも身体的能力、認知能力及び知覚能力をトップレベルまで拡張できる技術を開発し、社会通念を踏まえた新しい生活様式を普及させる。

人々の1日のライフスタイルが変化する



## CONSEPT ひたる

現代は、SNS やインターネットにより、人々は自分1人の内省的な時間を失いつつある。一方、コロナ禍の時に散歩の価値が再発掘されたように、人々が居住地に止まり続ける暮らしが行われる。



常に誰かと繋がり続ける現代人

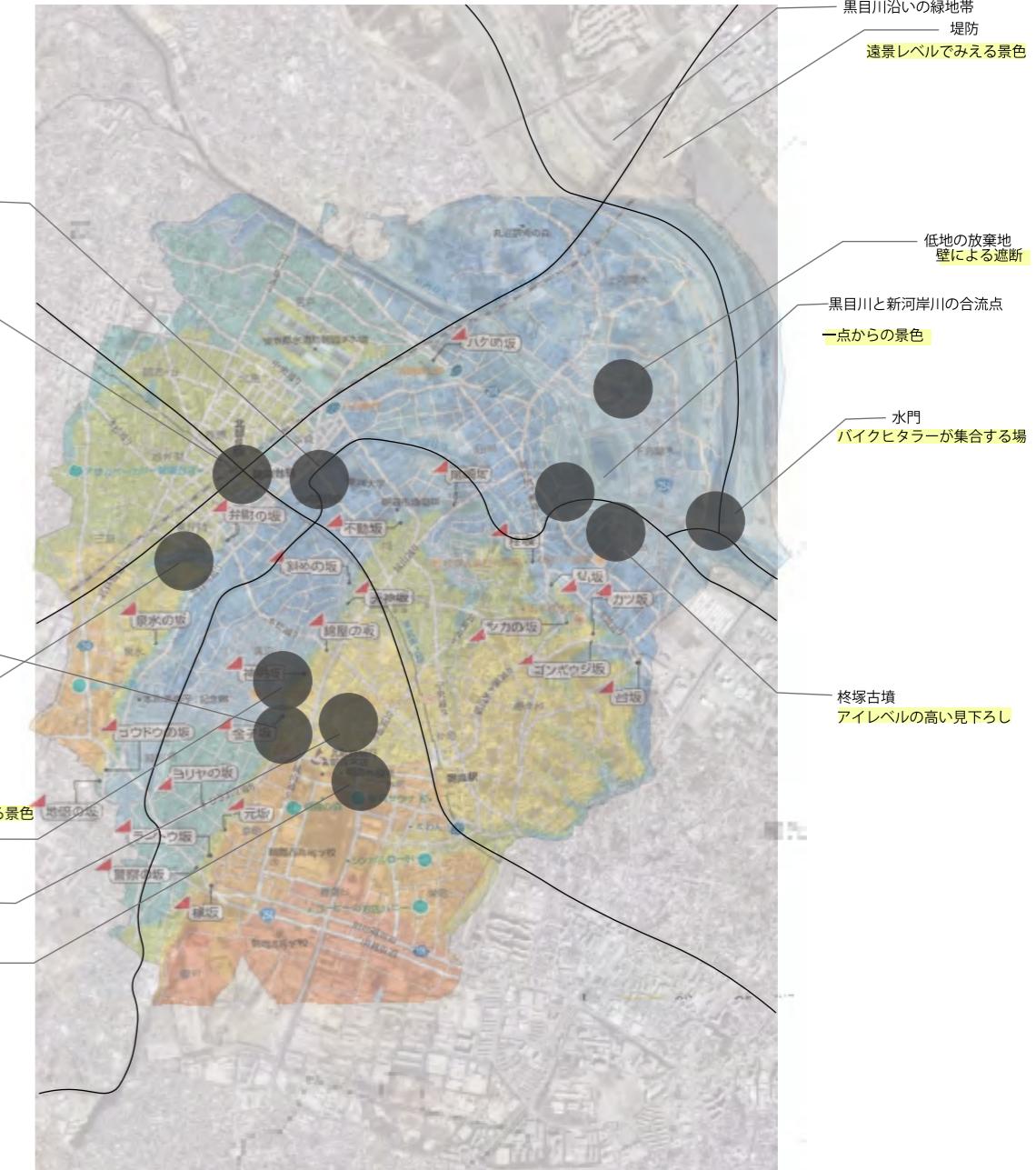
最後までページをめくる手が止まらない。  
この本を読んでよかったです。

この本は面白い。  
気になったら実写化もみよう。

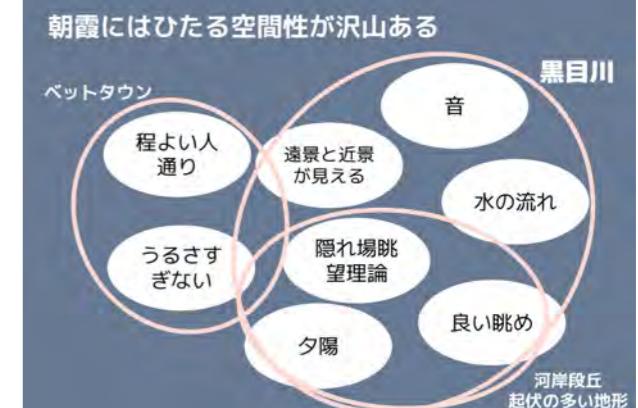
402ページの1行目が衝撃。  
思わず声がでた！

## DESIGN 浸りサイトマップの形成

朝霞市の中にある「ひたる」ことのできる場所を可視化する。



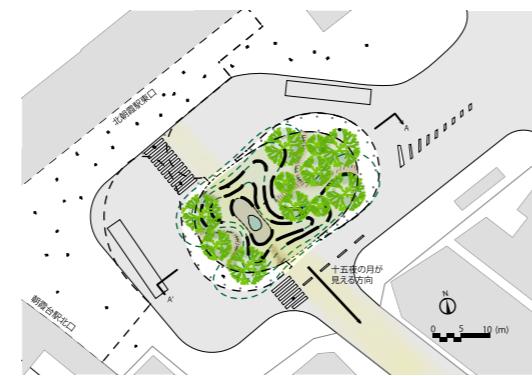
朝霞にはひたる空間性がたくさんあり  
それは朝霞の郊外性や地形から生まれている



## PLAN 浸る空間のデザイン

### CASE1 お月見交通島

浸る空間は操作で作り出すのではなく、朝霞市の潜在的魅力を引き出すためにおこなった。その空間は全員が同じ価値観で共有するのではなく、特定誰かに刺さる場所であると想定した。少ない操作でもその場所で浸るためのパフォーマンスを最大限引き出すことができると考える。



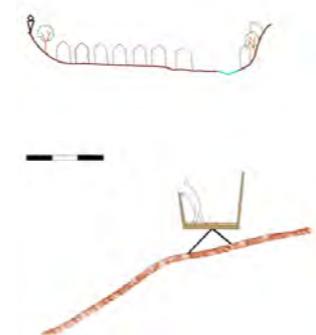
### CASE2 お合流のあわいに浸る

黒目川と新河岸川の合流地点で、川に向かって尖った地形が没入感を生み、朝日が川面に映る美しい風景を味わえるスポット。水量により行ける範囲が変化し、飛び石や中州で立ったりしゃがんだりしながら浸りを体験できる。



### CASE3 街に揺蕩う吊り橋

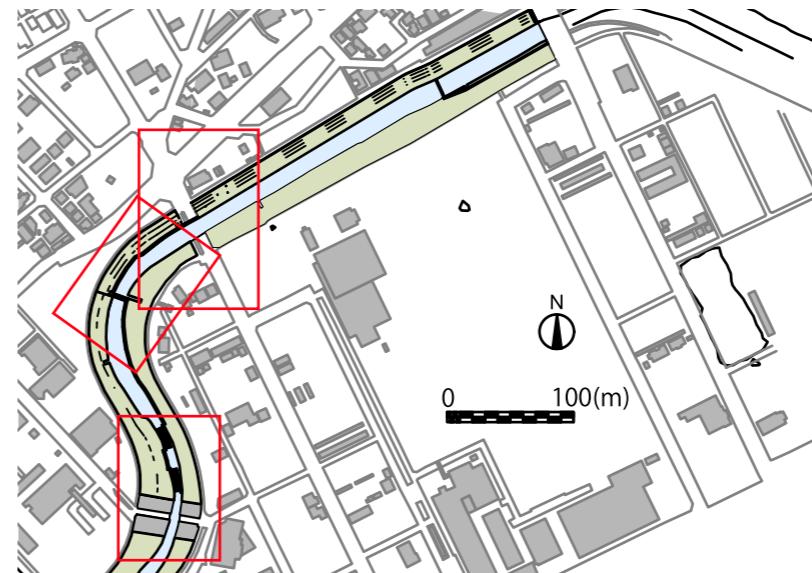
子供の遊びや公園への通路として利用されてきた吊り橋を滞在できる空間へとデザイン。手すりの高さや背後の囲われ感により、ひとりやすい環境を生み出す。日中は向かいに広がる街並みを眺め、夜は宅地から溢れ出る光を見ながら、橋の上の浸りを体験する。



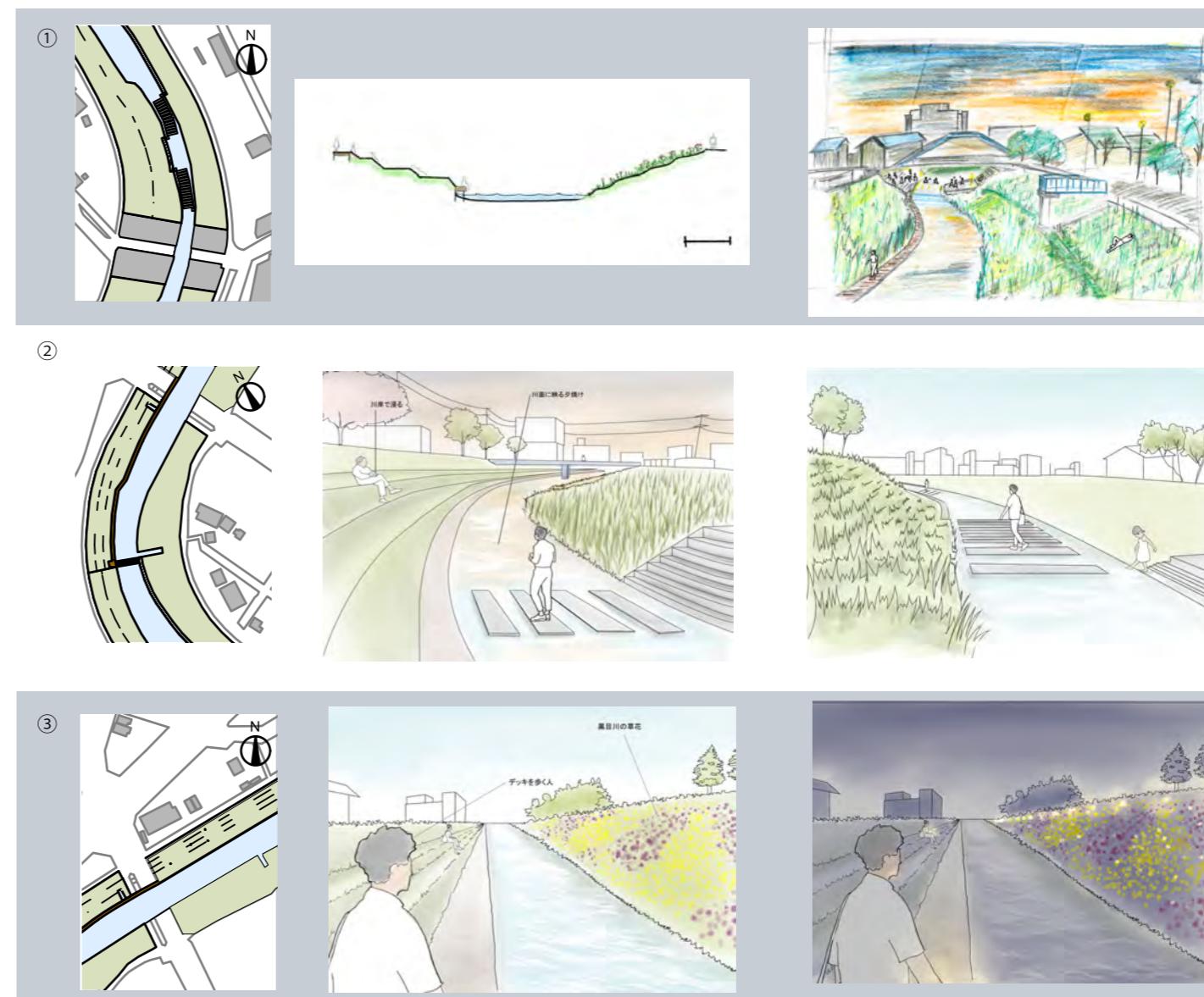
### CASE4 黒目川浸る道

現状、随所で多世代が河岸で滞留、移動したりしている。黒目川の特徴として、夕方の景色が綺麗・川の水深が浅く、人が入れるなどが挙げられる。設計提案では、線的なデザインを通して「歩行を通じて浸る空間」を提案する。

全体平面図



部分詳細図 0 45(m)



# B

# 集約都市  
# 循環  
# 荒川低地



大矢 加奈子  
武藏野美術大学  
建築コース M1



神林 史尋  
千葉大学  
緑地環境学科 B2



小室 虎太郎  
千葉大学  
造園学研究科 M1



樹田 美希  
日本大学  
まちづくり工学科 B4



須藤 伸孝  
日建設計



坂本 幹生  
ランドスケープ・プラス



上林 就  
上條・福島都市設計事務所

概要

A team

B team

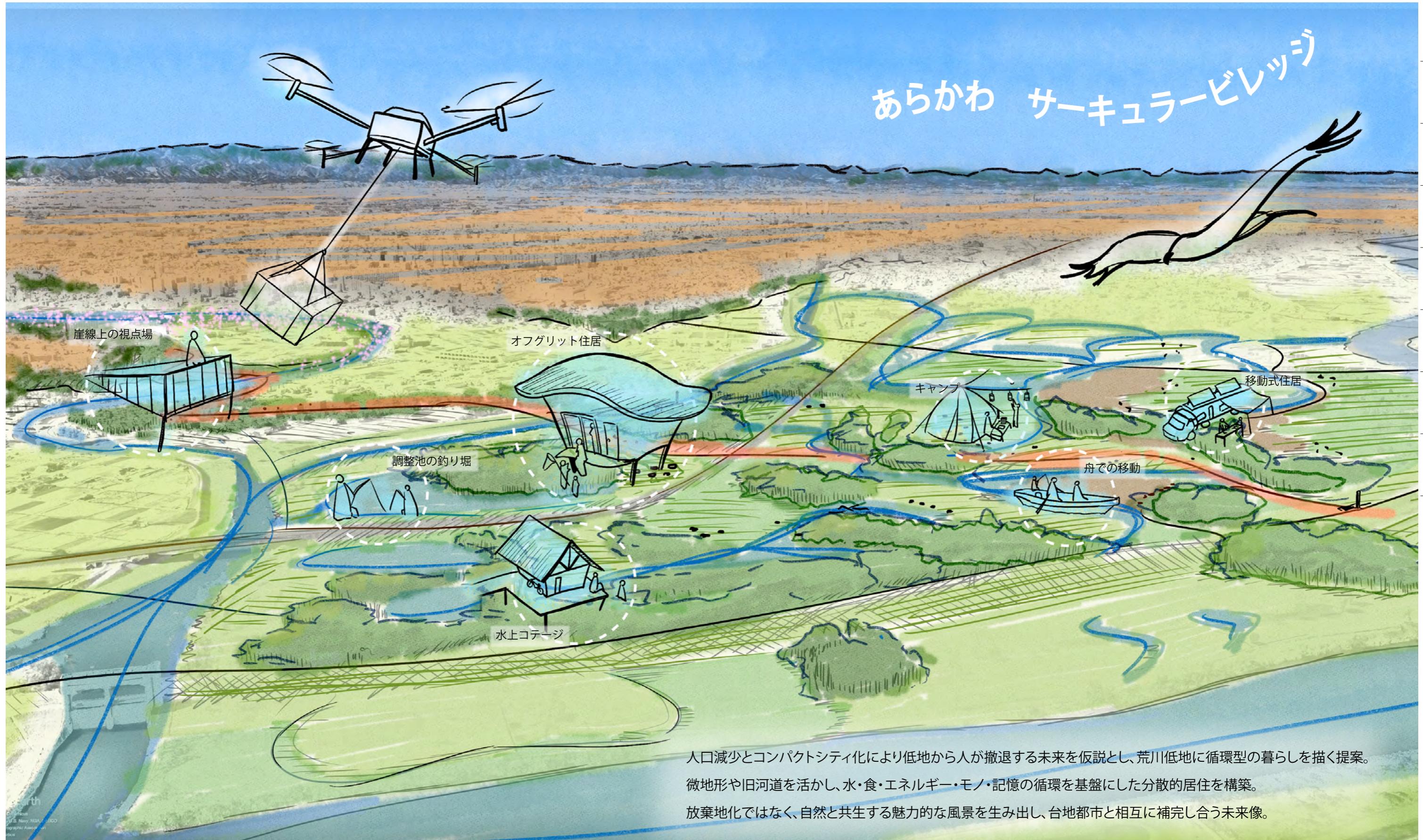
C team

D team

E team

ゲスト講評

活動記録



人口減少とコンパクトシティ化により低地から人が撤退する未来を仮説とし、荒川低地に循環型の暮らしを描く提案。

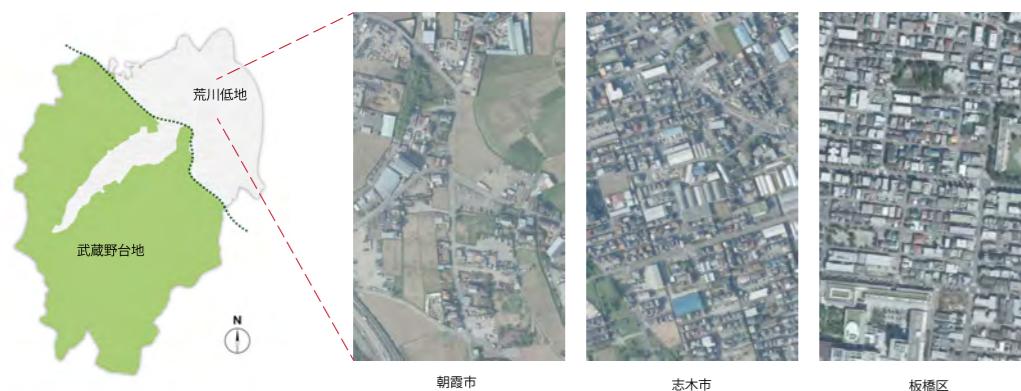
微地形や旧河道を活かし、水・食・エネルギー・モノ・記憶の循環を基盤にした分散的居住を構築。

放棄地化ではなく、自然と共生する魅力的な風景を生み出し、台地都市と相互に補完し合う未来像。

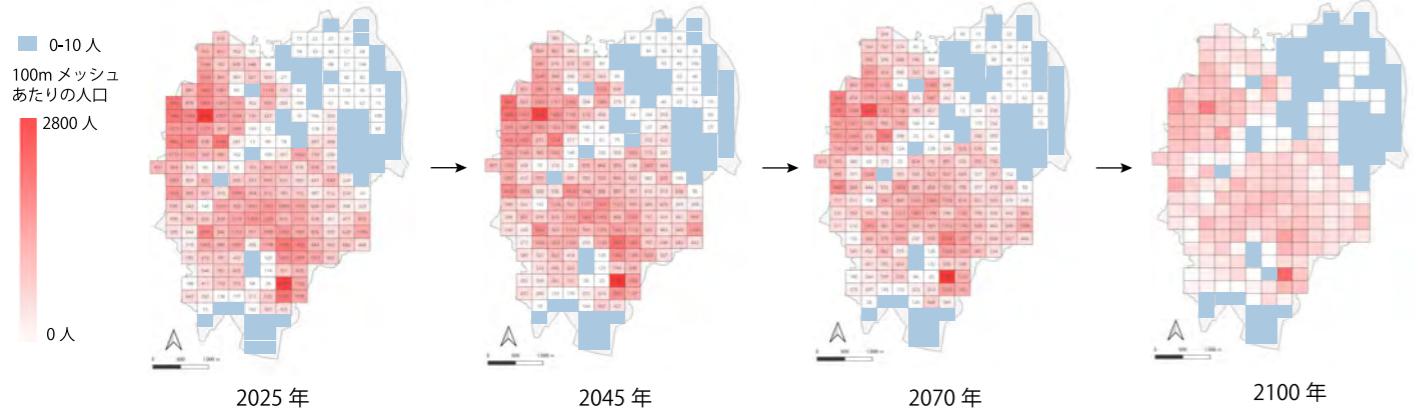
## 分析

### 朝霞市の構成

#### 周辺地域と朝霞市の低地部の比較



### GISを用いた朝霞市の人口推移

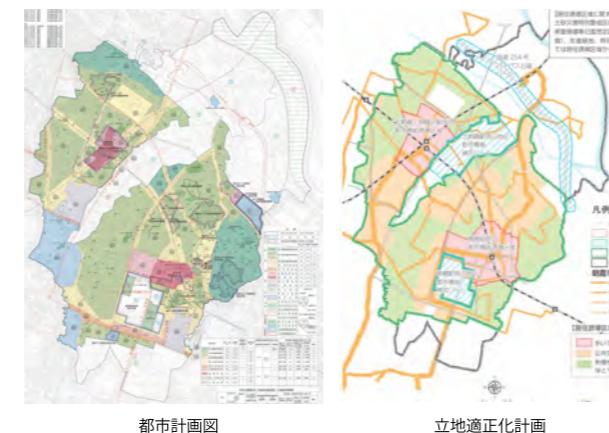


台地側では、人口増加が進む。  
低地側では、過疎化が進む。

### 災害推定マップ



### 行政の計画



台地上の駅拠点へ居住区域を誘導し、コンパクトシティ化が目指されている。  
低地において、都市計画図では、市街化調整地域として白図となっている。  
立地適正化計画では、自然空間保全・緑地景観保全ゾーンと記載。

## 現地調査

### 低地の魅力



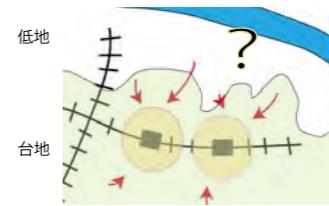
### 見られた課題



## コンセプト

### 仮説

今後コンパクトシティ化が進み  
低地から人がいなくなったら？



### 現状

コンパクトシティ化の進められていない低地には明確なビジョンがない

- ・低地は住むに値しないのか？
- ・放棄される空白地ではなく、そのオルタナティブとして、  
低地ならではの魅力的な暮らしを描けるのではないか？

### 提案



### あらかわサーキュラービレッジ

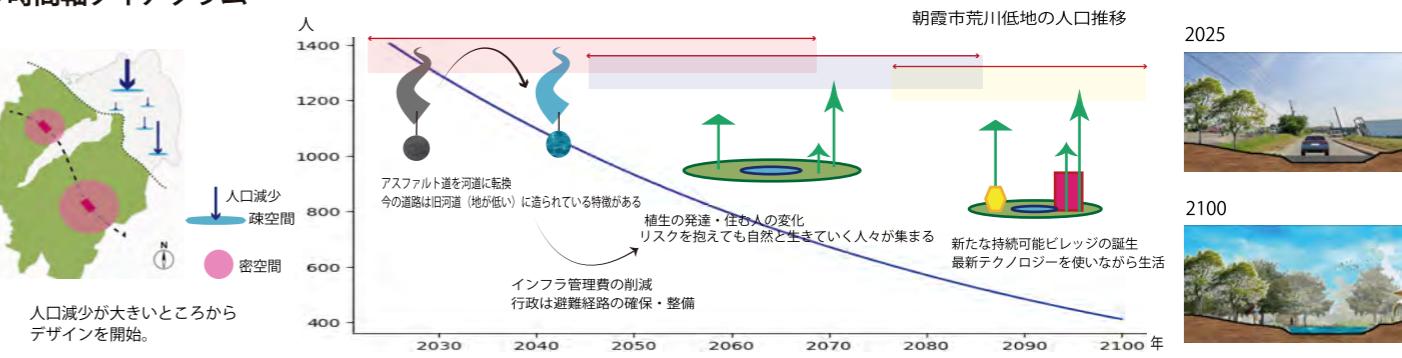
都市の空白としてではなく、低地を魅力的な風景として捉え、  
新しい暮らしを提案。

集約される都市のインフラに依存しない、もの・人・ことの好循環を  
生み出し、台地上の都市との共生関係を築く。

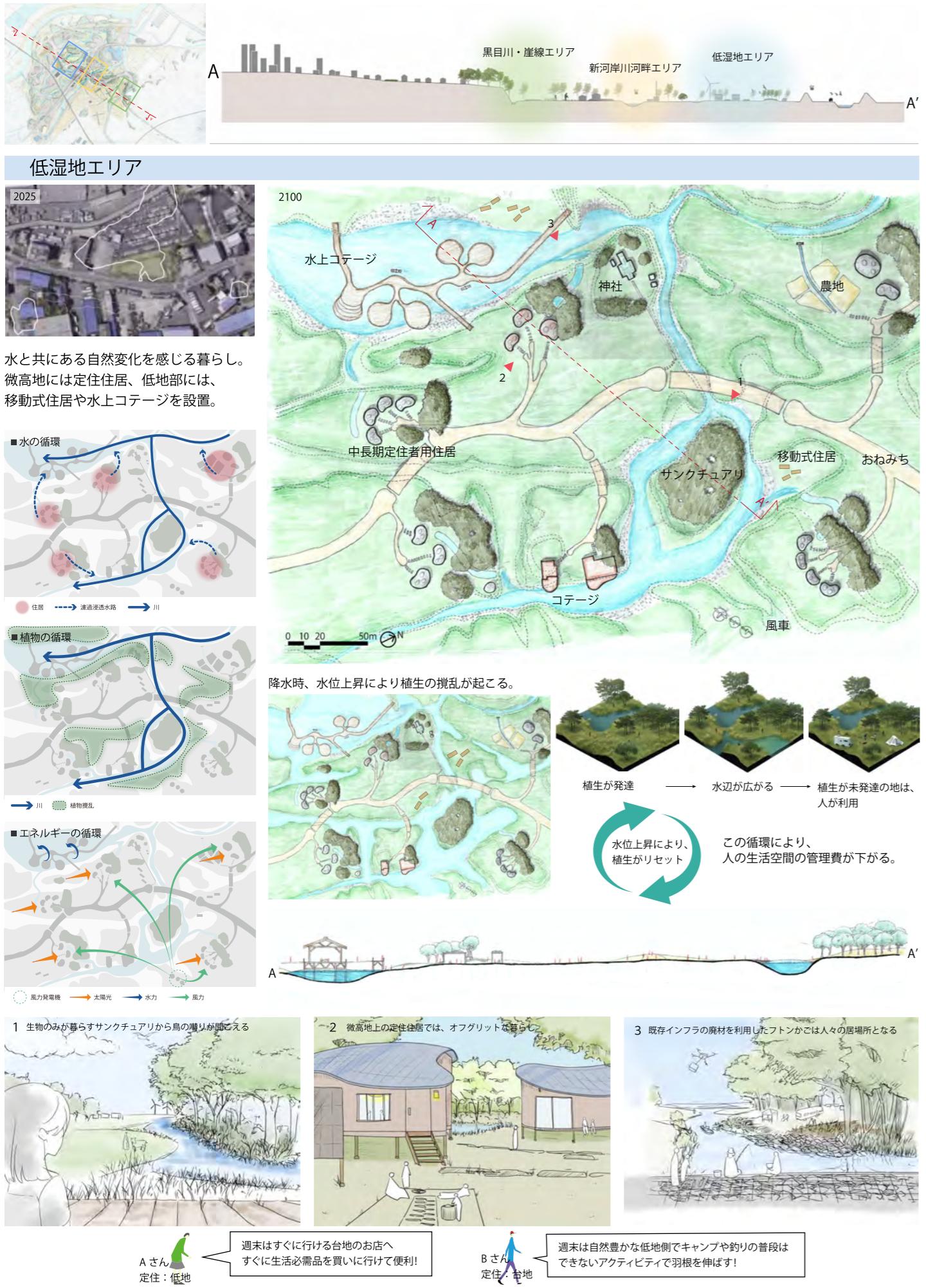
## マスターplan



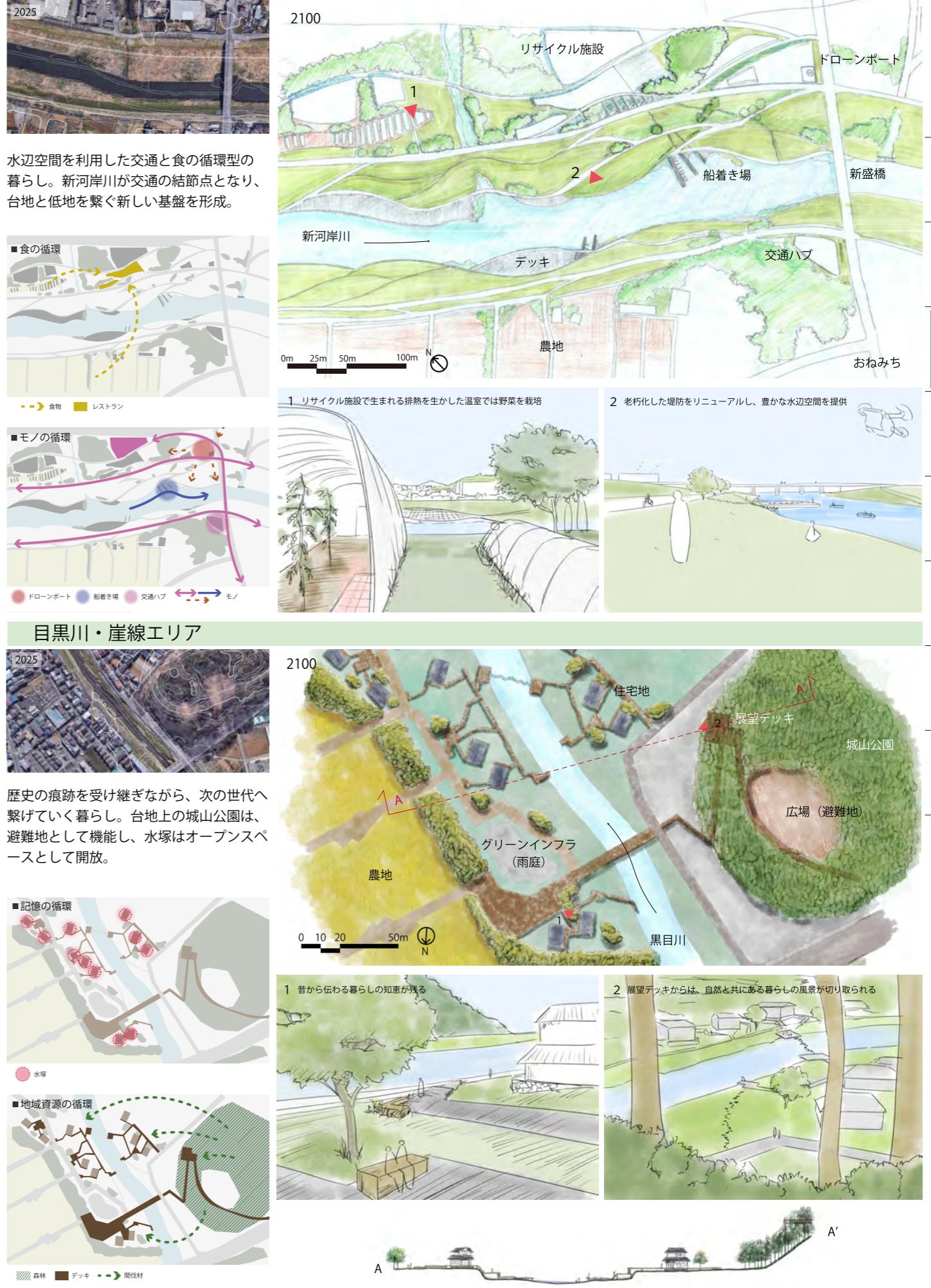
### 時間軸ダイアグラム



## 詳細プラン



## 新河岸川河畔エリア



# C

#物流  
#ドローン



富田 玲樹

東京大学大学院工学系研究科  
建築学専攻修士 M2



戸梶 工

千葉大学大学院  
園芸学研究科 M1



佐藤 輝汰

東京農業大学  
地域環境科学部 B4



安高 雄斗

武藏野美術大学  
造形学部建築学科 B4



関根 緋奈乃

日本大学理工学部  
まちづくり工学科 B3



富士榮 宏将

フリーランス



吉井 信人

フリーランス



岩穴口 嘉音

株式会社  
オンデザインパートナーズ muu design studio



木滑 公人

株式会社  
muu design studio

## 2055 空飛ぶ!! 物流拠点のまち：朝霞

仮説：陸運だけに頼る輸送がなくなったら



本プロジェクトは、“陸運だけに頼る輸送がなくなる”という仮説に基づき、2055年の朝霞市を「空飛ぶ物流拠点のまち」として設計する構想である。

市内を流れる黒目川・新河岸川・荒川の上空をドローン航路として整備し、全国の空港や企業から届く物資を効率的に住宅地まで運搬する高度な空中物流ネットワークを構築する。舟運に始まった物流の歴史は陸運やネット通販へと発展し、将来的には空輸が主要手段になると予測される。この流れを踏まえ、川沿い低地部は自然湿地として回復させつつ、高床式の移動型物流拠点を配置し、水害対策と地域開放を両立させる。

黒目川沿いでは物流拠点と住民交流施設を統合し、農地ではドローン農業の展開と直売所・体験型農業を連携させ、住宅地には配送機能と植栽を兼ねた柱を整備する。こうして物流、暮らし、自然環境が立体的に調和する都市モデルを提示するとともに、朝霞市を次世代物流システムの実証都市として位置づけ、地域の歴史や文化資源を生かしながら、産業機能と居住環境の共存、そして朝霞の都市発展の可能性を切り開く。

概要

A team

B team

C team

D team

E team

ゲスト講評

活動記録

## 現地調査 朝霞市の魅力：川辺の風景 川沿い低地部（黒目川 / 新河岸川 / 荒川）

### ひと×みどりが重なる風景の魅力



黒目川  
子供たちの川遊び場  
(橋周辺)

新河岸川  
年配の方のお散歩  
コース

荒川  
川辺を背景に  
ランニング



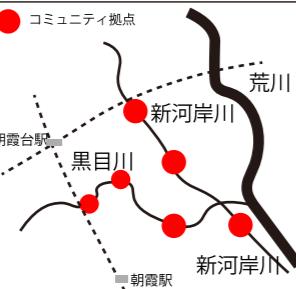
### 現地調査 地域コミュニティの現状



橋の下でBBQを楽しむ家族が見られる。

子供達は、川で遊んでいる

黒目川の橋周辺に、川遊びや地域コミュニティの拠点がある



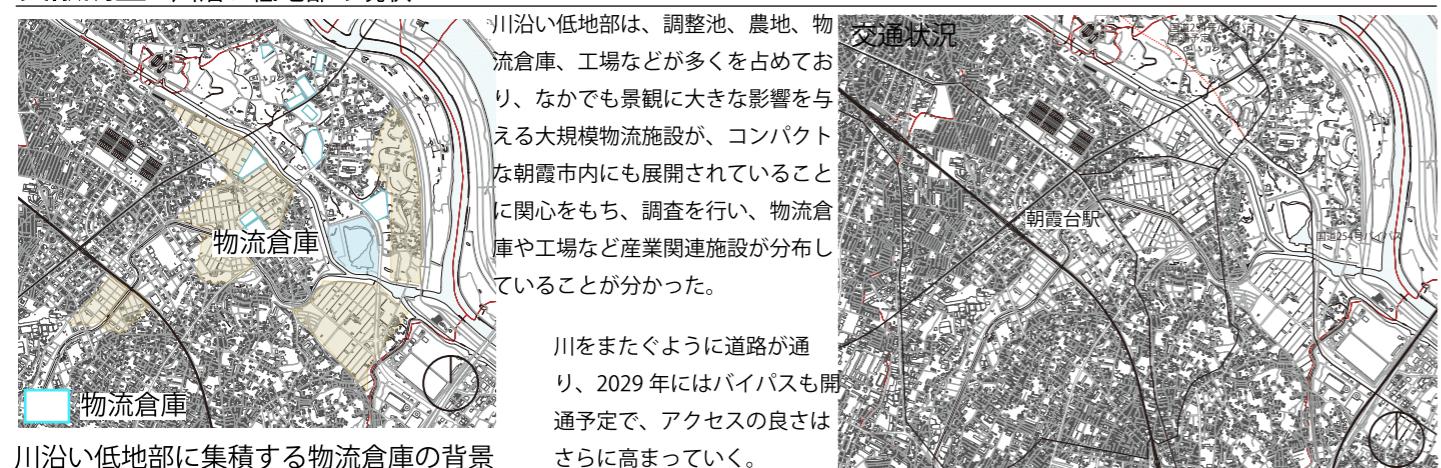
拠点はあるけれど、お互いに結びついていない状態

### 現地調査 自然環境の現状



ギャップのある状態の緑が面していることが、河辺の風景の特徴である

### 文献調査 川沿い低地部の現状



【低地を中心とする産業】  
・物流（三井物産、ダイヤ一物流、ゴト一物流等）  
※2029年「ロジスクエア朝霞」完成予定  
・物流サービス（倉庫管理等）  
・ドローン開発（NTT e-Drone Technology）  
・自動車バイク産業（本田技研、その他電池やバーツ製造多数）

物流と製造技術開発が重なるこの地は  
「物流の結節点」と言える。

産業分布図

輸送関連業（物流・倉庫等）

製造業（技術開発等）

### 仮説とコンセプト 仮説：陸運だけに頼る輸送がなくなったら

物流の存在がこの地の鍵となっており、朝霞の川辺は、それすべてが重なり合う場

→ 物流に注目

朝霞市と物流の歴史

1600 新河岸川舟運が盛んになる 「江戸と川越を結ぶ物流の大動脈」として機能  
1700 鉄道輸送普及により舟運の利用縮小  
1800  
1900 陸運（鉄道・道路）への移行が加速 新河岸川沿いの物流の役割は低下  
トラック輸送がメインとなり始める  
1950 新河岸川の埋め立て・護岸整備が進み、水運の痕跡が失われる  
2000 国道254号・川越街道沿いに物流機能集積 2024年問題（ドライバー不足）  
2050 ロボット・AI・ドローンなどによる最新の物流技術の展開



概要

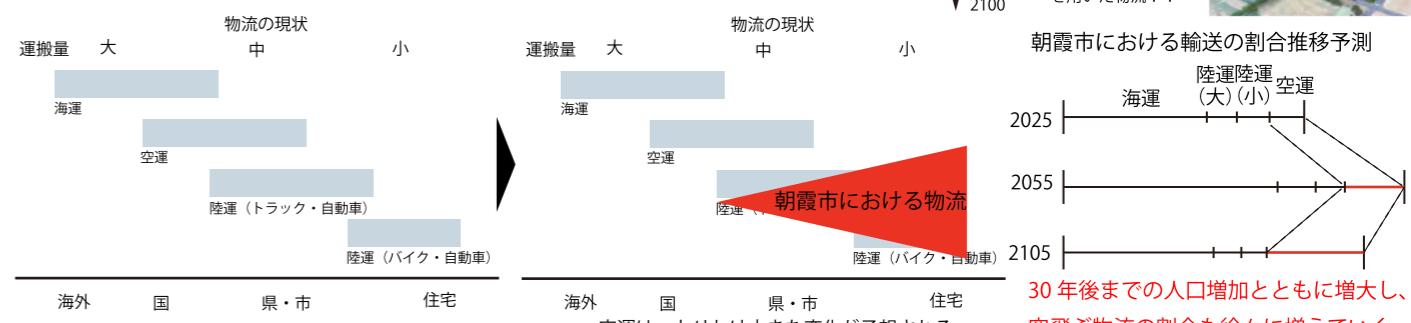
A team

C team

E team

ゲスト講評

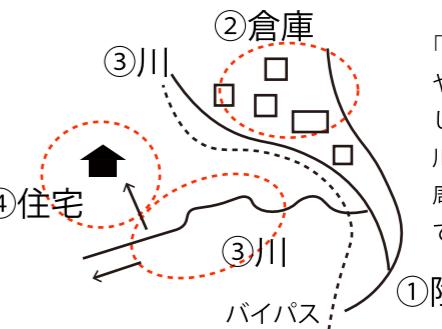
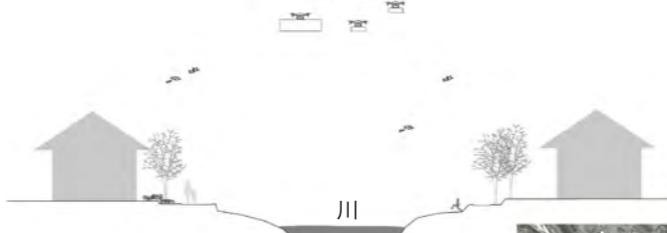
活動記録



物流の未来とともに、朝霞の未来を描くことで新たな可能性を示すことができるのでは？

### デザイン方針 建物や人への安全性を考慮→川上空を主動線とする

ドローンは川上空を主導線として、朝霞のまちを巡っていく。川上空は建物や人が少ないため、飛行ルートとして設定しやすく、この動線はから周辺地域への物流拡大にも繋がっていく。

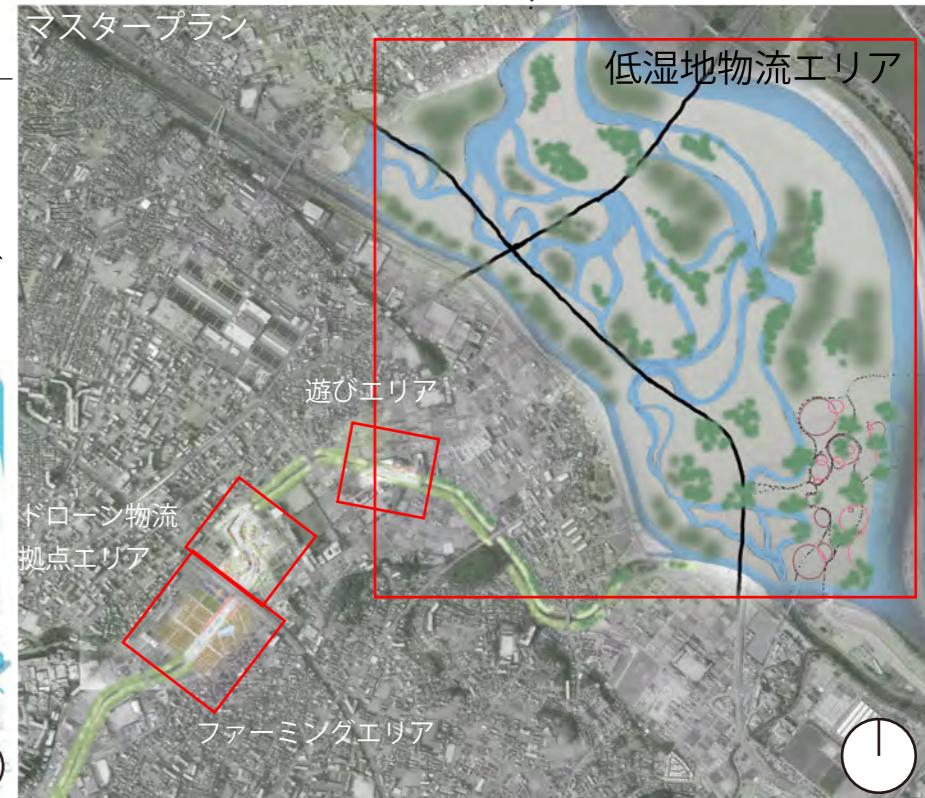
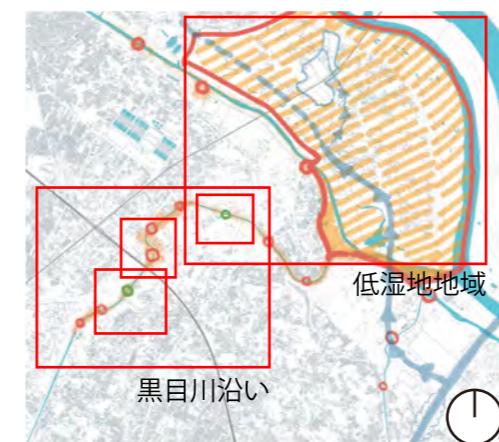


「もの」は、全国各地の空港や企業からバイパスを経由して川沿い低湿地に到着し、川上空を空路として住宅地周辺まで飛び、路地を通って住宅へと届く。

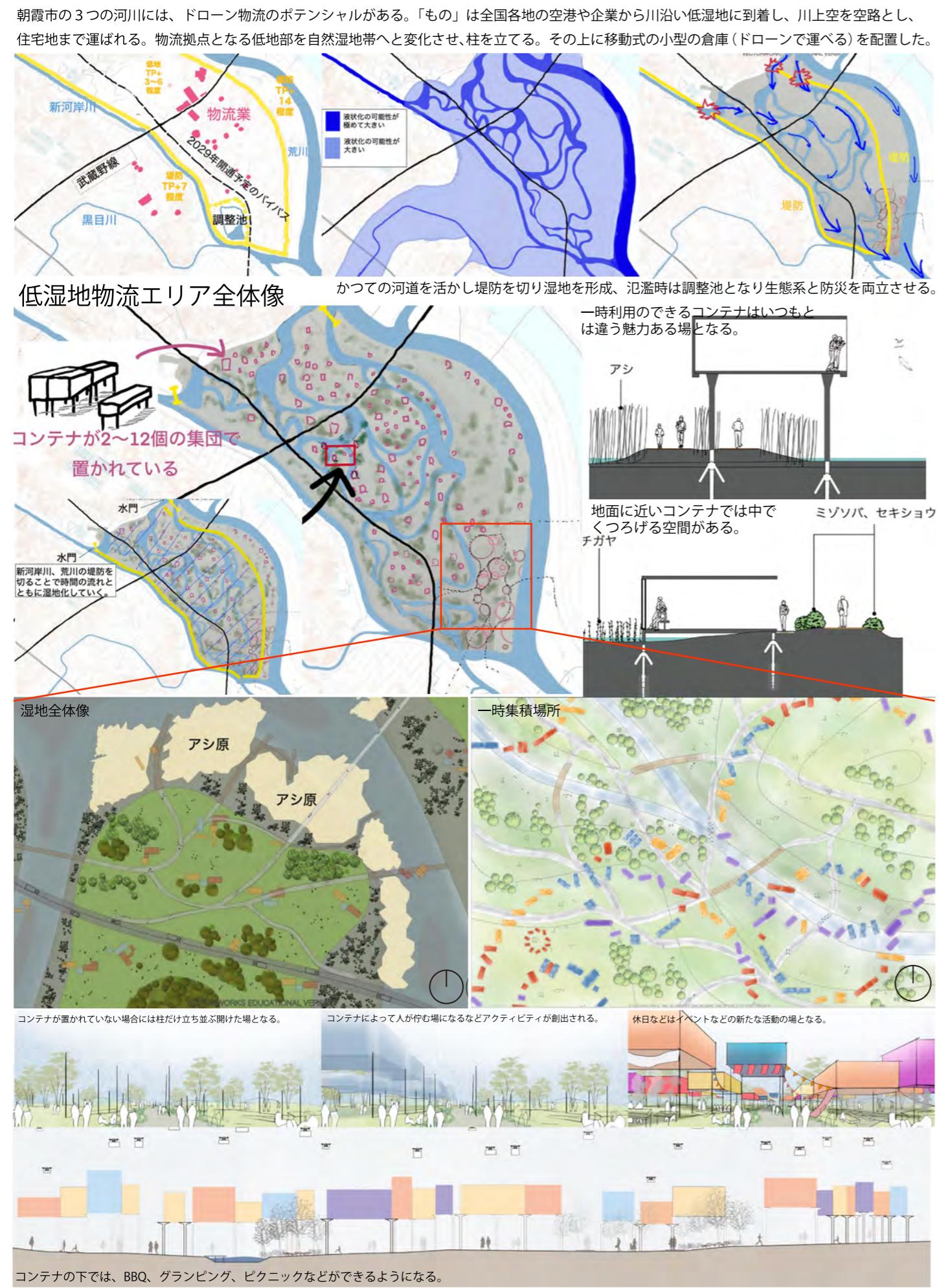
### デザイン対象地

現在のドローンの状況と、将来的なドローンの発展から、河川にドローンルートのポテンシャルを見出し、ドローンの飛行ルート、ドローン拠点、コミュニティ拠点として荒川と新河岸川に挟まれた低湿地と、黒目川沿いに、複数の敷地を設置し、提案を行なっていく。

### 対象敷地



## デザイン提案 低湿地物流エリア



## デザイン提案 黒目川沿い



# D

A portrait of Naoya Ueda, a young man with dark hair, smiling, wearing a brown jacket over a light blue shirt. The background is a blurred outdoor scene.

A portrait of a young woman with dark hair, smiling and holding a large ice cream cone with a stick. She is wearing a light blue t-shirt. The background shows green trees.

佐野 玄隼

法政大学  
都市環境デザイン工学科 B4



## 現状の課題

外で遊びたいけど、この暑さでは危ないから家にいよう。

病院に行きたいけど、歩いて坂を登るのは大変…

朝霞台駅で降りても特に何もなさそうだしすぐ乗り換えるか。

農業について調査する時、移動が大変で農地を周りきれないなあ



**親子**  
外遊びが好き  
35歳/7歳



**おばあちゃん**  
坂の多い所に居住  
80歳



**サラリーマン**  
釣りが好き  
45歳



**東洋大生**  
農業の研究をする  
21歳

…将来モビリティとホームが発達すると、こんな1日に！

## 親子の1日

公園へ遊びに行く

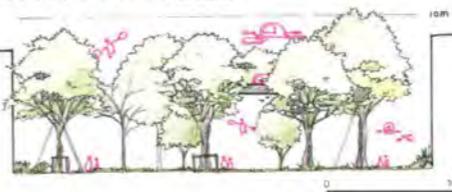


外遊びが好き



日差しが木陰に遮られ、とても涼しいです。一定間隔ごとに、モビリティを停めて寄り道したくなるようなホームが点在していて、移動しながら休む、遊びながら休む、など多彩な過ごし方ができるようになっています。おかげで、暑さを気にせず外遊びができるようになりました。

公園通りのリデザインシンボルロード BB'断面図



概要

A team

## おばあちゃんの1日

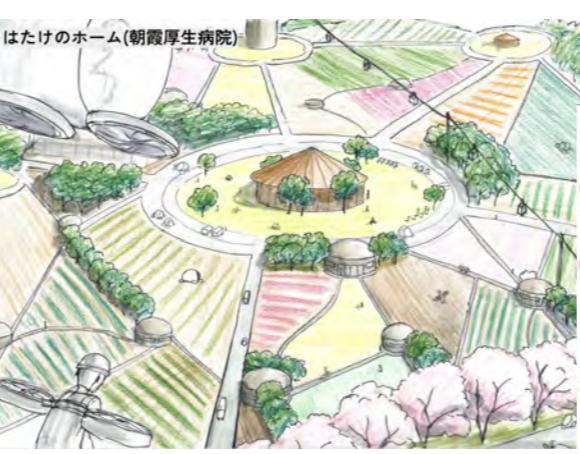
坂を降って病院に通う



お花が好き



私は台地の上に住んでいて、足が悪いので自動運転モビリティに乗って坂の下の病院に通っています。モビリティを使うと、長い坂も楽に進めて、外出のハードルがとても下がりました。



病院の帰り道にはモビリティに乗りながら、春には黒目川側沿いの桜、梅雨にはあじさいが見ることができ魅力的ですよ。帰りのスーパーで農学生ともお話できて楽しかったわ。

B team

C team

D team

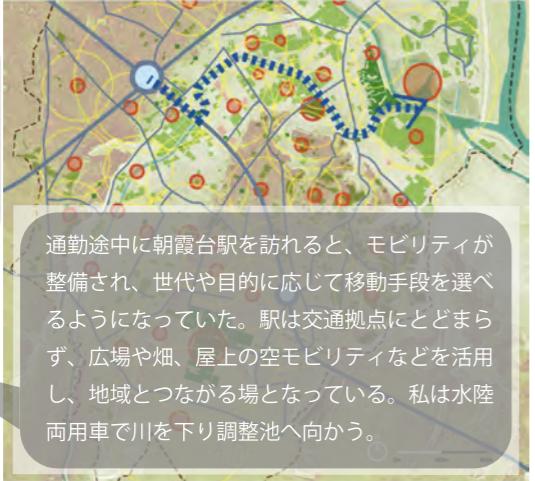
E team

## サラリーマンの1日

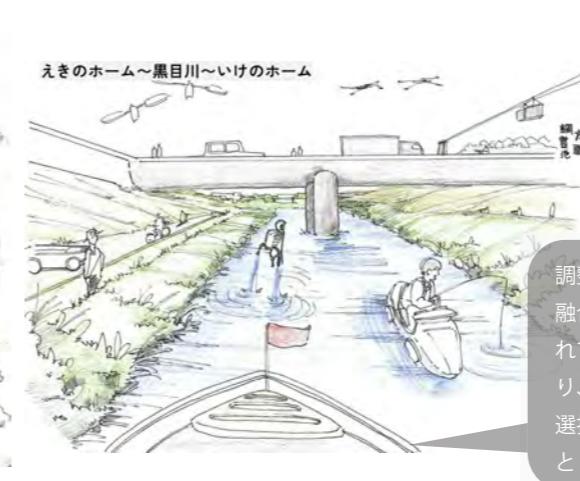
釣りをするために朝霞市に寄り道



釣りが好き



通勤中に朝霞台駅を訪れると、モビリティが整備され、世代や目的に応じて移動手段を選べるようになっていた。駅は交通拠点にとどまらず、広場や畑、屋上の空モビリティなどを活用し、地域とつながる場となっている。私は水陸両用車で川を下り調整池へ向かう。



調整池は治水・防災機能とアクティビティが融合した空間で、多様なモビリティが活かされている。帰りはキックボードで河川敷を走り、別の景色や人々の活動に触れた。移動の選択肢が増えることで、日常の移動は「寄り道」として楽しめる豊かな体験へと変わっている。

ゲスト講評

活動記録

## 東洋大生の1日

農業の研究をするため朝霞の農地をぐるっと回る



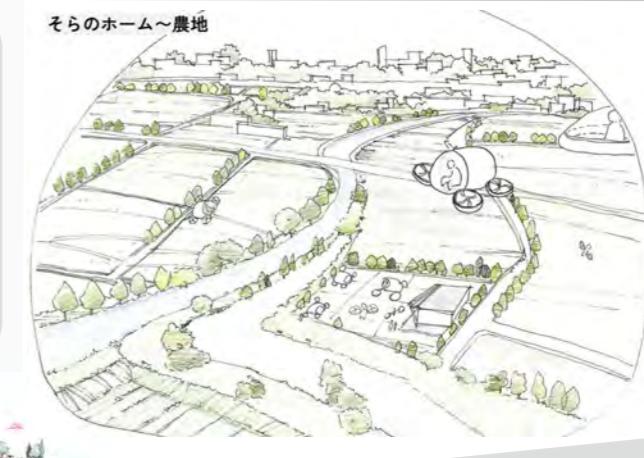
農業を研究



歩いて巡るのが大変だから、城山の緑ホームへ行って、頂上の小型飛行機を使いましょう！



私は自転車に乗って、城山公園につきました。自転車の電源がちょっと切れたけど、まあ、大丈夫！道の途中にあるケーブルカー出発点のところに、受電スポットをいっぱい設置してくれているから、準備万全です！こんな暑い日に、山頂の緑陰の中に休憩広場が設置され、心地よい滞在の場所が充実しています。ここからモビリティが飛び回っている空を眺望しながら、タピオカ一杯飲みましょう！あ、時間があつという間に過ぎたね、タピオカを持ちながら次の場所に飛んで行きましょう！



空から周りの綺麗な風景を引き込み、学校行く前に、心が癒された。あ、もしタピオカを山下の親水公園にいた親子にこぼしちゃったのがやばいですね。気をつけて移動しよう！

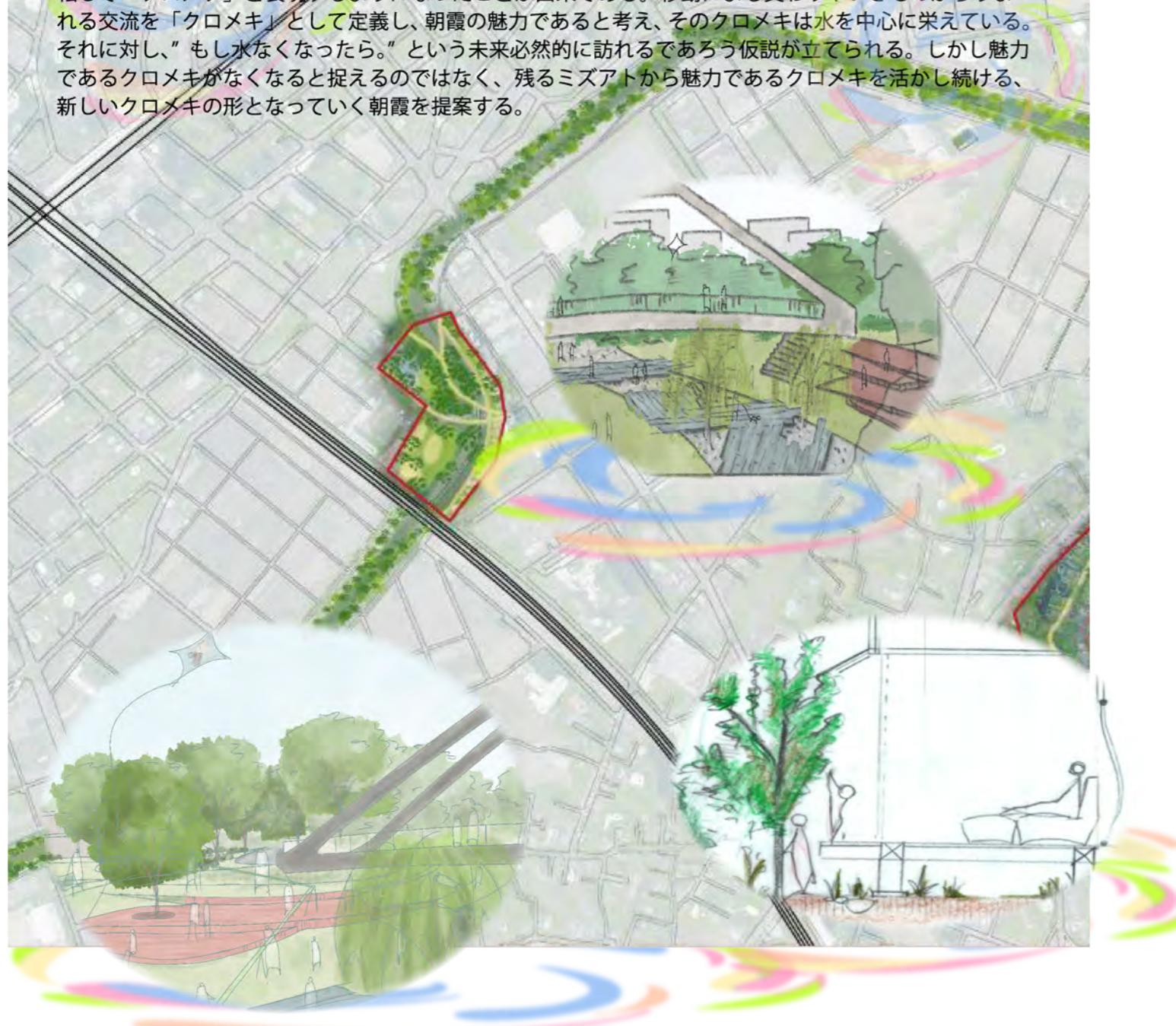
# E

# 水跡



## アサカ、クロメク

朝霞市を流れる黒目川（クロメガワ）は、至る所で湧きあがる水がくる巻いている様子からをクルメク、転じて「クロメク」と表現するようになったことが由来である。移動による交わりやいきものから生まれる交流を「クロメキ」として定義し、朝霞の魅力であると考え、そのクロメキは水を中心に関えている。それに対し、"もし水なくなったら。"という未来必然的に訪れるであろう仮説が立てられる。しかし魅力であるクロメキがなくなると捉えるのではなく、残るミズアトから魅力であるクロメキを活かし続ける、新しいクロメキの形となっていく朝霞を提案する。



概要

A team

B team

C team

D team

E team

ゲスト講評

活動記録

## 01 クロメク、アサカ

朝霞市を流れる1級河川である黒目川（クロメガワ）の名の由来である。一説によると、至る所で湧きあがる水が沢や湧水地を形成し、そこで湧き上がってきた水をクルメク、転じて「クロメク」と表現するようになったといふ。

## 02 現地調査：魅力的なクロメキは、水のある場所で生まれている！

カルガモの親子の撮影や、水路の流れる城山公園に緩やかに形成されたコミュニティ、橋の下で黒目川に入り遊んだり、虫や魚をとったりする親子、流域のスケールを感じられるひらけた河川の合流点、人流を生み出す鉄道と河川が交差する光景地調査を通じ、水のある場所で魅力ある風景やコミュニティ、つまりクロメキが生まれていることに気付いた。



## 03 文献調査1：水を利用して成長してきた朝霞市

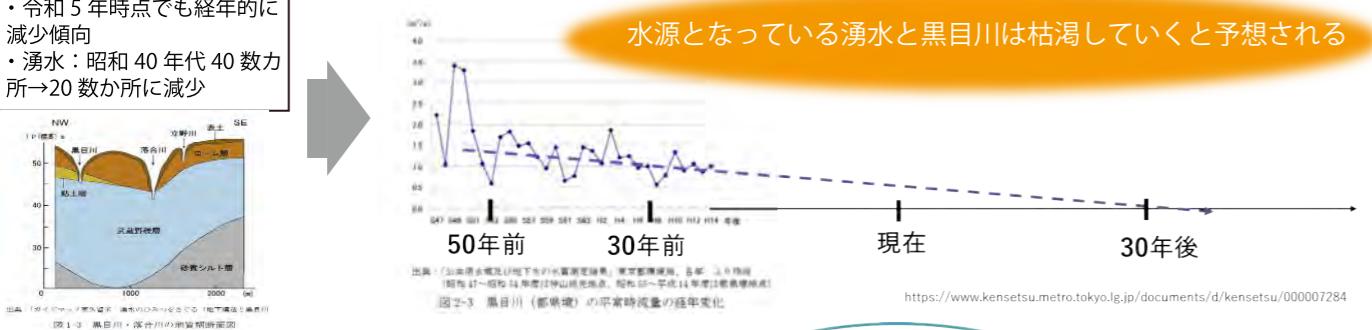
朝霞市は水の流れを利用した伸銅産業と、江戸まで繋がる河川を利用した舟運で発展した。また、豊富な湧水は生活用水として利用され、河川から惹きこんだ水は農業の発展にも寄与した。朝霞は水を中心としたクロメキとともに発展してきた地域なのだ。



## 04 文献調査：黒目川に予想される変化

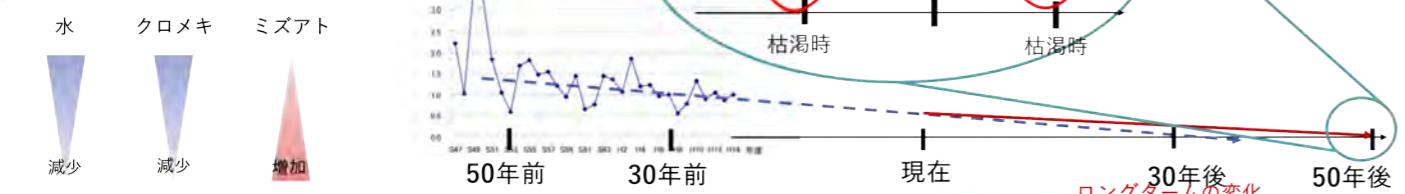
黒目川は流域の地盤特性から、湧水・地下水への依存度が高い河川である。しかし、その湧水は一般に①②③の影響により減少しており、朝霞市内でも約40箇所あったものがほぼ半減している。人為的なアプローチにより改善する例もあるが、気候変動により想定外の変化が起こる現代以降、いずれ限界が訪れ、黒目川が枯れてしまうと考えられる。現に黒目川の流量は減少傾向であることが指摘されている。

- 地下水流・湧水依存度の高い河川
- 令和5年時点でも経年的に減少傾向
- 湧水：昭和40年代40箇所→20箇所に減少



## 04 仮説：水が朝霞から消えていったら？

水が消えていくと、クロメキも消えていく。  
水がなくなつてもミズアトは残り続ける。



黒目川の水の減少にはロングタームの変化（減水）とショートタームの変化（渇水・増水の循環期）が予想される。  
これらに対し、①水の減少スピードを緩やかにする②極端な水量変化を緩衝する2つのアプローチをする。



## 06 コンセプト：水を中心とした「クロメクまち」を存続させ、はぐくむ

朝霞市の歴史には、豊富な湧水と黒目川が不可欠であった。

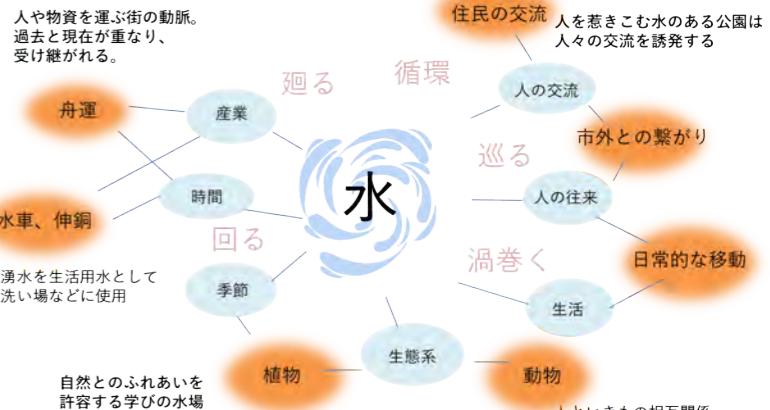
そして、それらは現在の朝霞市においても魅力的な空間や人々の活動を生み出し、重要な要素の一つとなっている。

しかし、湧水は減少傾向にあり、それに依存する黒目川の流量も経年的に減少傾向であることが指摘されている。江戸時代から生活や産業と密接に結びつき地域を支えてきた「水」が朝霞から消えてしまうのだ。

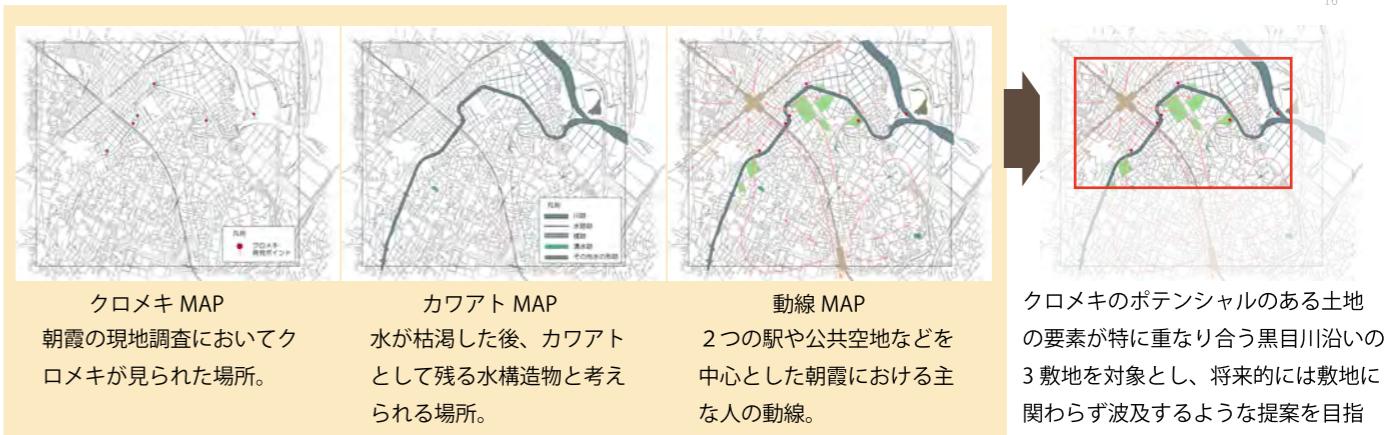
この現状に対し、本提案では

- 水の減少スピードを緩やかにする
- 水がなくなったミズアトを活用する

という2つのアプローチを行い、クロメク朝霞を後世に受け継ぐことを目指す。



## 07 対象地



クロメキのポテンシャルのある土地の要素が特に重なり合う黒目川沿いの3敷地を対象とし、将来的には敷地に跨わらず波及するような提案を目指す。

## 08 マスターplan

各敷地に対して、減水期には水の現象を抑え魅力的な人々の活動や風景 = クロメキを存続させるアプローチ、循環期には水の増減の影響を緩衝しミズアトにおいて魅力的な人々の活動や風景 = クロメキを再定義するアプローチを提案する。

各敷地は水の減少時期・水循環におけるスケール・立地特性において異なる性質をもつ。



枯れていく速度	速	湧水	中流	下流	遅
スケール	小	湧水	中流	下流	大
クロメキ	# 車窓から乗客を惹きこむ # 人々が会う		# 生態系が巡る # 生き物を介した人々の交流		# 記憶が受け継がれる # 痕跡に思いを馳せる

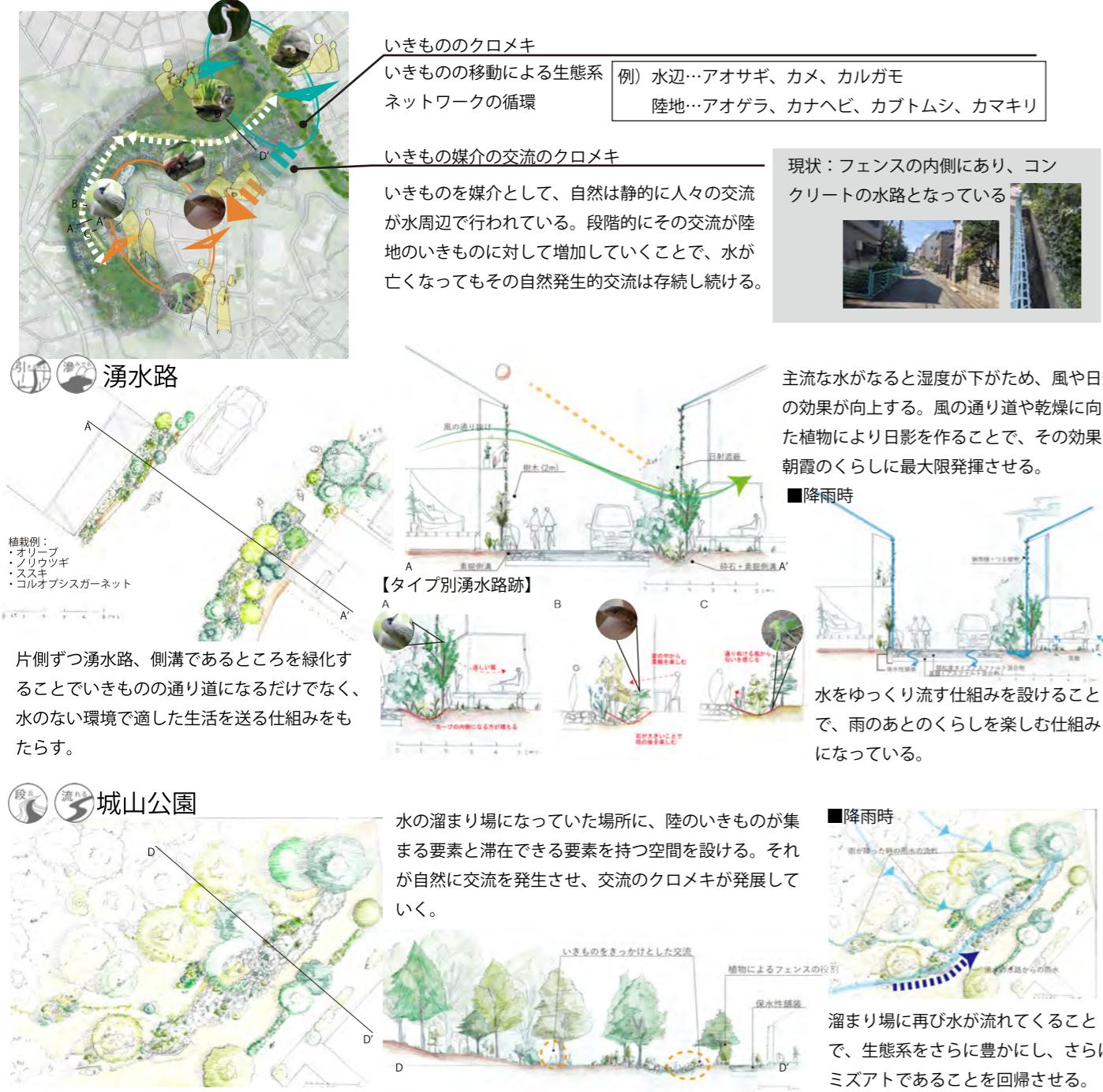
## 09 デザインコード

各敷地に対し、朝霞の水の性質や役割から着想を得た要素をデザインコードとして用いる。



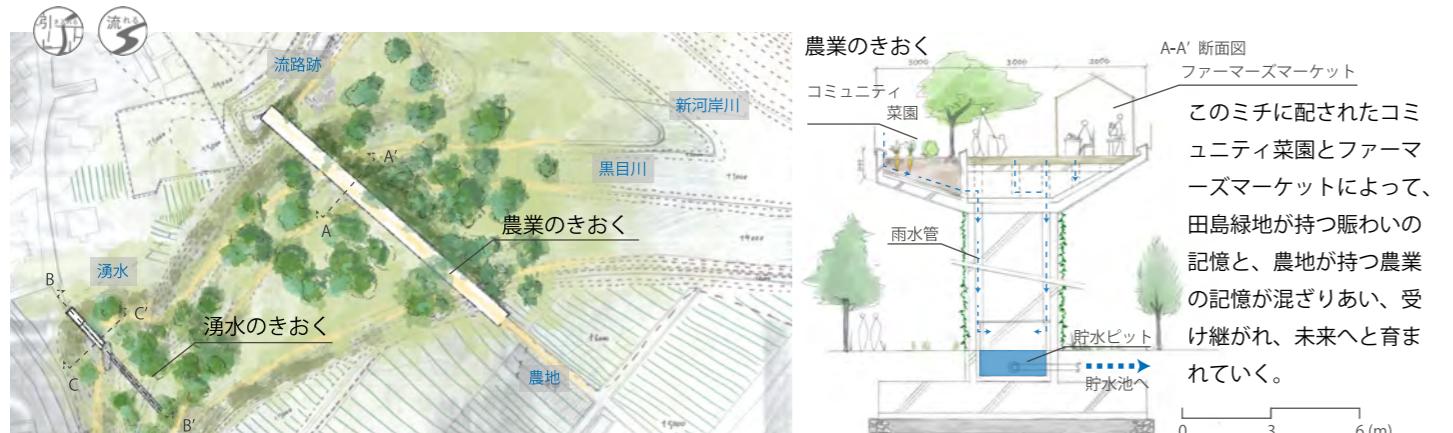
### case1 くらしのクロメキ 用水路と城山公園のエリア

#生態系が巡る #いきものを介した人々の交流



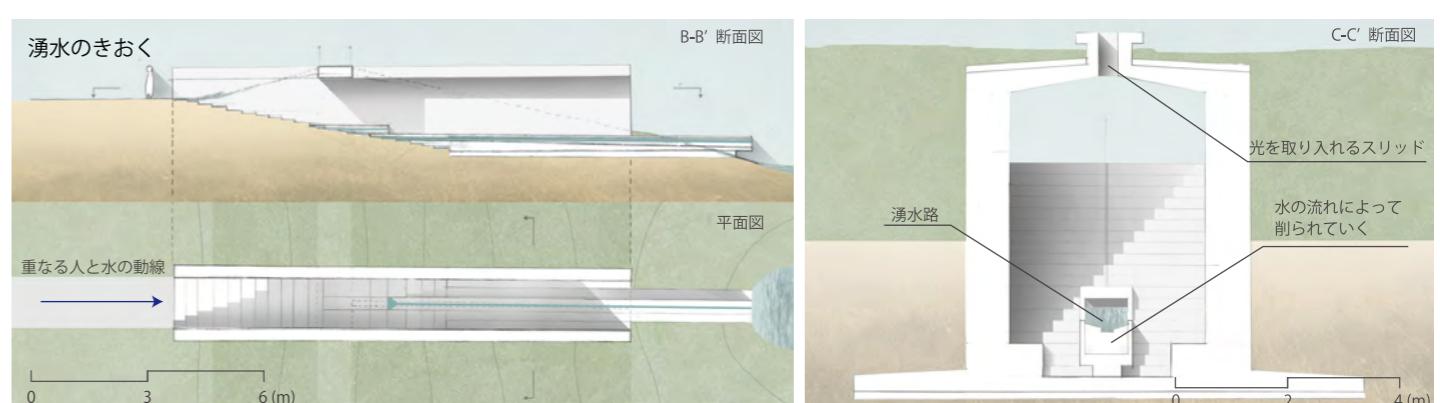
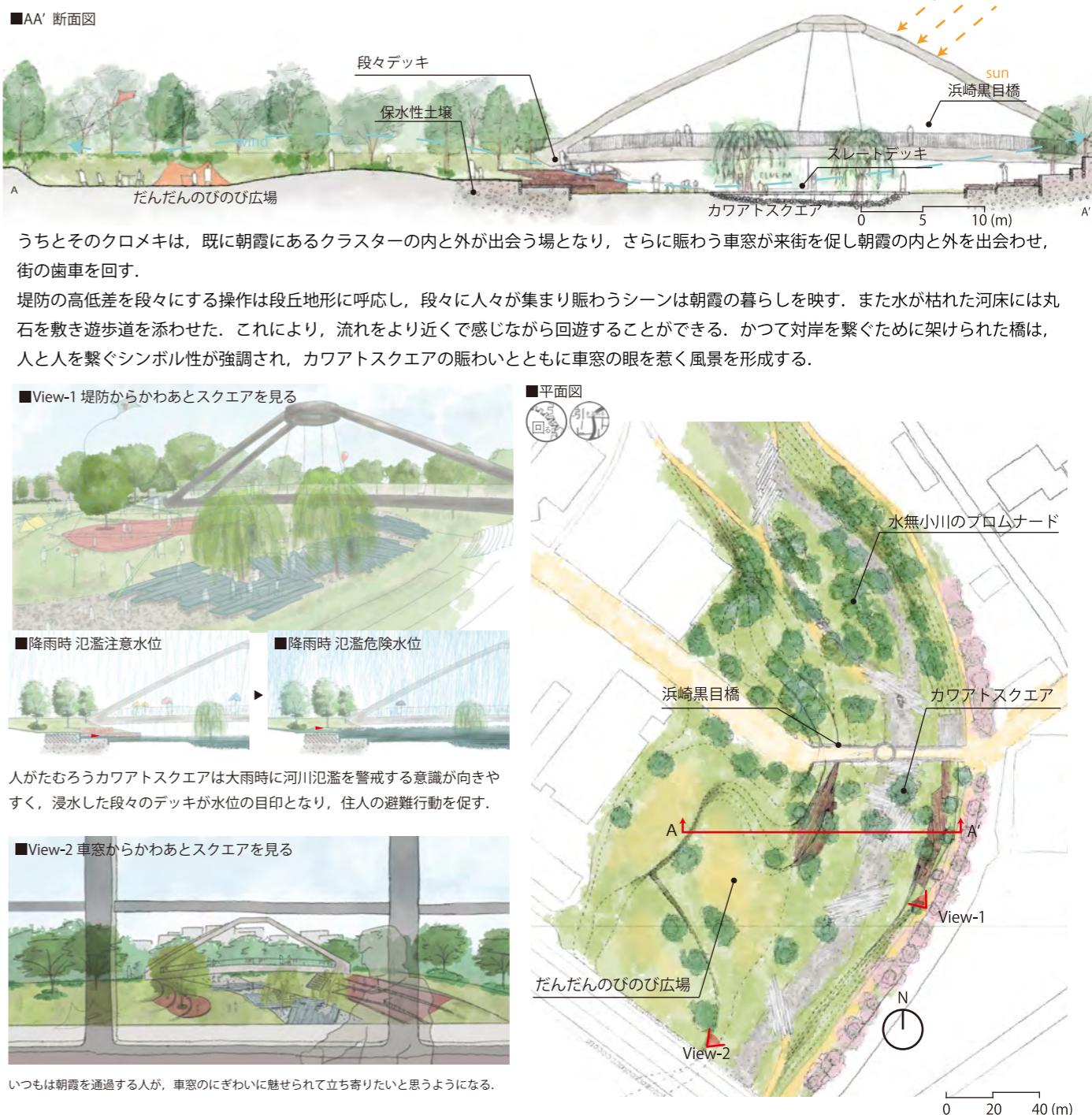
### case3 きおくのクロメキ 黒目川・新河岸川合流エリア

#記憶が受け継がれる #痕跡に思いを馳せる



### case2 うちそとのクロメキ 北朝霞駅からの延長動線と黒目川跡のエリア

#社葬の眼を惹きこむ #人々が出会う



# ゲスト総評

松岡 里奈

朝霞市都市建設部長



大藪 善久

株式会社SOCI



熊谷 玄

株式会社スタジオ ゲンクマガイ



## A班に対するコメント

「ひたる」という言葉。自分自身、朝霞の魅力に感じている部分を素敵な言葉で表現していただきました。講評会では、仮説により朝霞の魅力が失われる、という指摘がありました。確かに、朝霞は通勤通学における立地のメリットが大きいですし、「ひたる」という感情も日常に絶えず、ふとした隙間にこそ感じるものかもしれません。仮説に課題はあったかもしれません、デザインはとても素敵で、私もひたりポテンシャルを回ってみようと思います。朝霞をたくさん歩いたからこそ見つけた場所だと伝わり嬉しかったです！

## 学生に向けたメッセージ

2週間お疲れさまでした！学年・学部もばらばら、初めましての人たちと議論し、ここまで成果をまとめあげたこと、心から尊敬します。皆さんにとっても刺激的な経験となったのではないか？この間、感じたことを大切にしてほしいなと思います。市の職員も発表を聞かせていただき、勉強になることばかりで、多くのことを吸収できた貴重な経験となりました。ありがとうございました。キックオフの日から2週間、朝霞満々で、たくさんの魅力を知りたかったと思います。ぜひまた朝霞に遊びに来てください！

福島 秀哉

株式会社上條・福島都市設計事務所



## D班に対するコメント

プレゼンの工夫が良かったです。ただ仮説からデザインまでもっと良いストーリーがつながるよう、みんなで議論してほしいです。モビリティハブと地域資源を結びつけて新たな価値を創出していくとする提案は既に議論されていますが、そこにホームという概念を入れた意味をもっと語って欲しかったです。例えば、誰かに会いたくてそこに行くといった、人が移動する本質的な欲求にまで踏み込めたら面白かったのでは。モビリティはネットワークなので、拠点形成だけではなくて都市デザインのあり方につなげてもらえば。

## 学生に向けたメッセージ

私はデザイナーの仕事の一つは、みんなでここを目指そう、という旗を立てることだと思います。さらにその後は、将来こうなれば面白いという話と、でも現実にはこうだという話の間を何度も往復する必要があります。どちらかを手放せば問題は簡単になりますが、腕がちぎれそうになんでもどちらの手も放さず、むしろ両方を突き詰めていくところにデザインの面白さを感じます。今の世界の計画・デザインのエッジがどこで、現実の課題はどこか、両方貪欲に勉強し、その先の魅力的な将来像を描ける人になってください。

## B班に対するコメント

朝霞市の場所性ともいえる、台地と低地の関係性を都市計画レベルでデザインしていく、という気づきが面白い。講評会では「仮説として現実的すぎる」という意見も出ていたが、一般に居住環境に適さないと思われている低地を住める場所に変えていくチャレンジングな提案。微地形や神社、水塚など朝霞らしい地形を読みながらマスター・プランを描いている点も良かった。一方、実現に向けたプロセス自体も重要な提案であるがゆえに、プレゼンではエリア全体と部分の関係、手の加え方の順番等も語ってほしかった。

## 学生に向けたメッセージ

所属や専攻や学年も異なる初めて会ったメンバーでチームを組みながら短期間で提案をする経験は、皆さんにとって何にも変え難いものになったと思います。思い返すと私自身の学生時代もサマスタのようなGSDWがあり、そこで経験や挫折、そして友人の存在が転機になったと思います。是非サマスタで出会った友人を大切にしてください。与えられた課題ではなく、「問い合わせ」ことがこれから特に求められるのだと思います。ランドスケープは手段のひとつです。領域を軽やかに超えながら、新しい時代を切り開いてください。

## C班に対するコメント

物流で栄えた町に、再び物流を軸に据えるという提案は、朝霞に正面から向き合いながら独自の未来像を示しておりとても良かった。ただし、提案を農業や都市全体のドローン利用にまで広げたことで、広げすぎて何が言いたいのかぼけてしまった印象もあった。例えば提案の軸を「空飛ぶ物流」に絞ってそのシステムを具体的に考え、仮説とシミュレーションを積み上げてみると、ドローンの飛行回数や充電拠点の位置・数など、現実的な課題が見えてくると思う。ぜひ、そういうアリアリティの宿る未来像に進化させてほしい。

## 学生に向けたメッセージ

短い期間で不完全燃焼なところもあったと思うけど、それも実力と受け止め次に繋げてください。課題を通して触れられた「問い合わせ」ことの面白さと難しさ、その経験はとても大切です。今回知り合った同世代のメンバーは、間違いなくこの先様々な場面で時には戦い、時には協力する同じ時代を生きる仲間になります。この出会いを持てることがサマスタの大きな意義であり、みんながサマスタを通して受け取る大きな成果でもあるのです。この繋がりを大切にしてこれからも良い関係を築いていってください。

木下 剛

日本造園学会関東支部支部長



## E班に対するコメント

地下水の枯渇は十分起こりうることだから、ミズアートへの提案は決して無駄ではない。しかし私の考えでは、そのような提案は本当に水流が失くなった時にやむを得ず行う類いのものである。水流が失われそうなら、まずはその阻止に尽力するのがランドスケープの専門性と考えたいが、それだとワークショップの趣旨から離れる。地下水の枯渇により涸れ川の期間が長期化するという仮説とし、その間の利用も想定しつつ、やがて地下水が涵養され水流が復活しても柔軟に対応できるというダイナミックな提案ができると良かった。

## 学生に向けたメッセージ

ゲスト講師の福島先生が、ランドスケープデザインは学校で習うことと実社会でやることのギャップが大きい。ワークショップで提案されたことを実現するには、仕事を作り出していくなければならない、と言われた。確かに、ある種の夢を描くようなところがランドスケープという専門分野には多分にある。すぐに実現は難しいが、時間をかけて取り組んでいけばよい。そのために、来たるべき社会の像を描き、それを実現する技術を考究し続けていく。仕事を作り出すとは、夢と現実のギャップを乗り越えることにはかならない。

## 採点結果

チーム	仮説・分析								空間への翻訳								デザインとプレゼン								合計点			
	仮説の設定・検証				敷地の調査分析				仮説を受けたコンセプト				コンセプトを空間化する手法				デザイン		プレゼンテーション									
大藪	熊谷	福島	木下	大藪	熊谷	福島	木下	大藪	熊谷	福島	木下	大藪	熊谷	福島	木下	大藪	熊谷	福島	木下	大藪	熊谷	福島	木下	大藪	熊谷	福島	木下	79
A	3	4	3	3	4	4	3	4	3	4	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3	3	4	3	4	99
B	5	4	3	5	5	5	5	4	4	5	4	5	3	3	4	4	4	3	4	5	3	4	5	3	4	4	4	93
C	5	5	5	5	5	3	4	4	5	4	4	5	2	3	5	4	2	4	3	3	3	3	3	3	4	3	4	93
D	4	3	3	4	3	4	3	3	2	4	4	4	3	4	4	3	5	4	5	5	5	5	5	4	5	5	93	
E	4	4	4	3	4	3	4	3	4	3	4	4	5	4	3	3	3	4	3	4	3	3	3	3	4	3	4	86

・松岡さんを除くゲスト4名が各項目5点満点で採点を行った後に合議により最終結果を決定した。

・合計点がトップとなったB班を最優秀賞に選定した。

・C班、D班の点数が同点となったためゲストによる投票を行った。C班が3票(大藪さん、福島さん、木下さん)、D班が1票(熊谷さん)獲得したため、C班を優秀賞に選定した。

# 活動記録

## A team



2週間で3回朝霞をはしりまわり、、、



仮設をチューターさんと話し合い



夕方～夜の朝霞を  
あるいはいる時、  
ここはひたれる  
要素がたくさん  
あることを発見！



ひたれる空間の議論



最終講評会前日の追い込み



最終発表後の打ち上げ！

現地で共有した「ひたる」という  
体験を元に提案を組み上げる  
プロセスは難しいものでしたが、  
とても貴重な経験になったと思います。  
感覚に真摯に向き合うことを  
これからも大切にしてほしい  
です。

小野寺康都市設計事務所 松野祐太

調査から見えるものも  
大切ですが、場所から受けた感情を  
分析することも同じくらい大切です。  
心の動きをカタチにする、と  
ても難しいテーマでしたが、それ  
ぞの良さが活きた素敵な提案でした。  
今回感じたことを、ぜひ  
これからの活動に生かしていく  
ください。

チューマーアーキテクトアンドアソシエイツ  
中馬啓太

その地域の魅力そのものに向き  
合った提案でした。難しかったと  
思いますが、トライする姿勢がす  
ばらしかったです。これからも何  
か場所のデザインする時は現地を  
よく見て、そこでしか生まれ得な  
いものを大事にしてください。

オンサイト計画設計事務所 本田亮吾

## B team



崖線からの景色と共に



黒目川が綺麗だった



シェアサイクルで現地を回る



千葉大学に集まって作業



眺望中



チューター事務所でのエスキス

最終発表後に集合写真！お疲れ様でした！



最終発表後に集合写真！お疲れ様でした！



現地を感じた朝霞の魅力を活かし  
たビジョンが印象的でした。  
調査分析やチーム内での議論を通  
じて地域の課題を深堀しながら、強  
度の高い仮説やデザインにつなげて  
いくことに期待しています。

株式会社 上條・福島都市設計事務所  
上林就

コンセプトを言語化しつつ、各所  
プランのエスキスを行った発表前々  
日のワークがとても印象に残ってい  
ます。  
厳しい工程での作業でしたが、提  
案を形にする皆さんの底力を見  
ることができました！

株式会社 ランドスケープ・プラス  
坂本 幹生

WSで得た視座を常に持ち続けて  
ください。  
風景として残り続けるランドス  
ケープがどんな未来と接続するのか。  
未来を問い合わせを立ててデザインに  
落とし込むのは、社会にでてからも  
変わりません。

株式会社日建設 須藤 伸孝

概要

A team

B team

C team

D team

E team

ゲスト講評

活動記録

# 活動記録

## C team



講評会後にメンバーでの記念撮影



炎天下の中での現地調査



事務所をお借りしての話し合い



夜遅くまで大学で作業中



発表中のC班



空間に繋げる部分はあと一步でしたが、強めの個性が響き合いながら（不協和音？）最終的には「物流」にたどり着いたチーム内のやり取りは印象的でした。それ自体が大きな成果だと思います！

株式会社 muui 設計事務所 木滑 公人



いつ誰と話しても、しっかりとこだわりを持ち続けていたことがとても印象的でした。自分たちの言葉で語られた最終プレゼンおよび質疑応答に、それが表れていたように思います。おつかれさま！

フリーランス 富士榮 宏将



各々の興味の方向性が異なっていた為、多様な考えをすり合わせていく WS の醍醐味を体験できた班だと思います。自分の考えを言葉だけでなく絵で伝えることも意識して今後も頑張ってください。

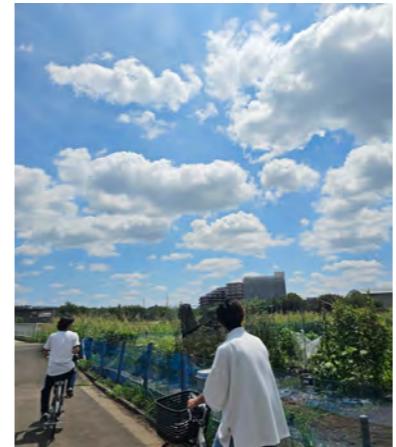
フリーランス 吉井信人



多方面に興味が向いていたせいか、様々な可能性を持つ良いテーマに出会えた気がします。この先同じテーマを議論出来る仲間がいることは素晴らしいことです。今回の縁を大切にしてください！

株式会社 オンデザインパートナーズ 岩穴口 鳴音

## D team



レンタサイクルで敷地調査



皆で色々なアイディアを議論



休息も大事です。



最終プレゼン当日、わくわくしています。



それぞれのペルソナになりきってプレゼン！



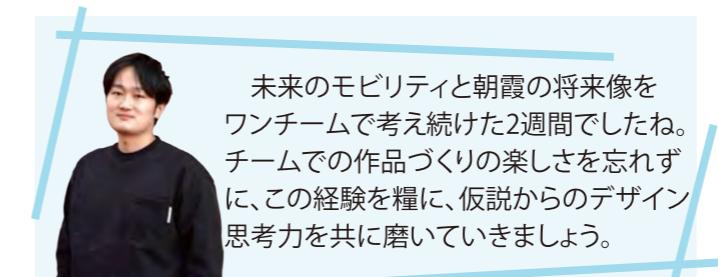
図面やパースをたくさん描きました！



中間発表日 提案に深みが出てきました。

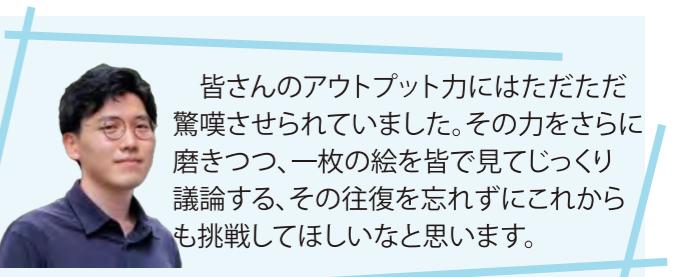


皆さんお疲れ様です！とても楽しい2週間でした！



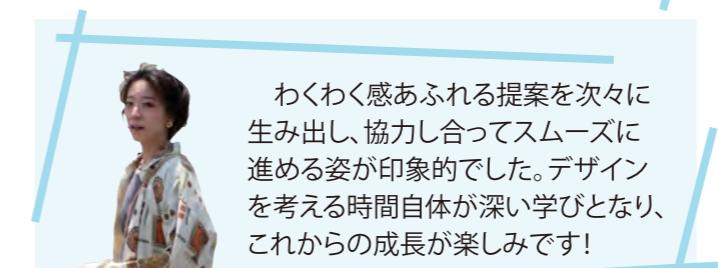
未来のモビリティと朝霞の将来像をワンチームで考え続けた2週間でしたね。チームでの作品づくりの楽しさを忘れずに、この経験を糧に、仮説からのデザイン思考力を共に磨いていきましょう。

株式会社 竹中工務店 川添 浩輝



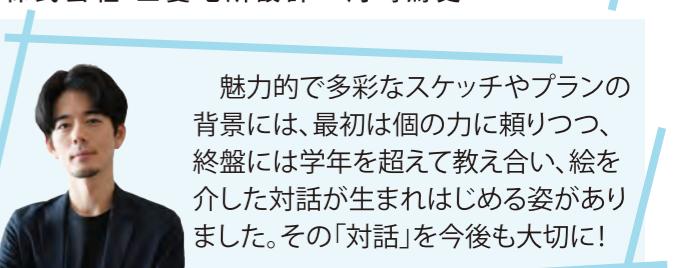
皆さんのアウトプット力にはただただ驚嘆させられました。その力をさらに磨きつつ、一枚の絵を皆で見てじっくり議論する、その往復を忘れずにこれからも挑戦してほしいなと思います。

株式会社 三菱地所設計 河崎 篤史



わくわく感あふれる提案を次々に生み出し、協力し合ってスムーズに進める姿が印象的でした。デザインを考える時間自体が深い学びとなり、これからの成長が楽しみです！

株式会社 日本設計 邢絲琦



魅力的で多彩なスケッチやプランの背景には、最初は個の力に頼りつつ、終盤には学年を超えて教え合い、絵を介した対話が生まれはじめる姿がありました。その「対話」を今後も大切に！

株式会社 muui 設計事務所 木滑 公人

# 活動記録

## E team



1日目!



作業 in 三菱地所



作業



現地調査で朝霞の声を聞きました



中間発表直前作業



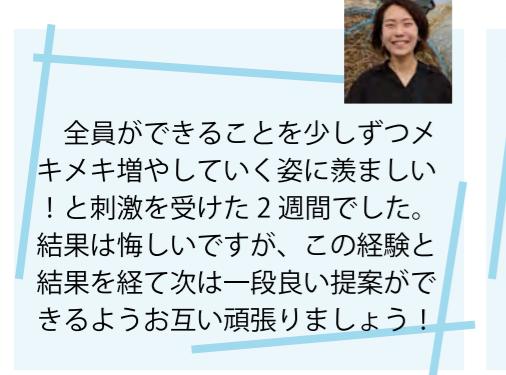
作業 in 東京大学



最終発表への追い込み

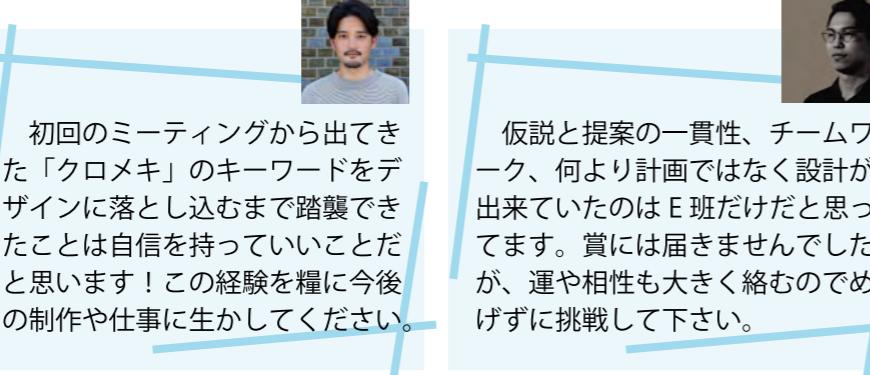


最終発表!!!



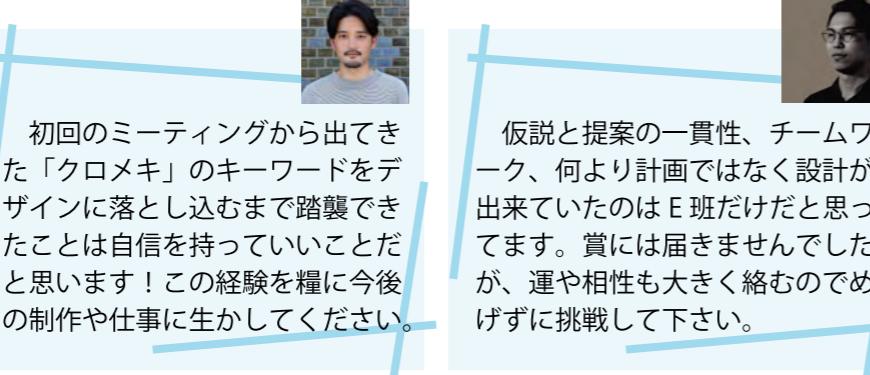
全員ができる事を少しずつメキメキ増やしていく姿に羨ましい！と刺激を受けた2週間でした。結果は悔しいですが、この経験と結果を経て次は一段良い提案ができるようお互い頑張りましょう！

株式会社 三菱地所設計 渡部美香



初回のミーティングから出てきた「クロメキ」のキーワードをデザインに落とし込むまで踏襲できたことは自信を持っていいことだと思います！この経験を糧に今後の制作や仕事に生かしてください。

株式会社 プレイスマディア 入江貴道



仮説と提案の一貫性、チームワーク、何より計画ではなく設計が出来ていたのはE班だけだと思っています。賞には届きませんでしたが、運や相性も大きく絡るのでめげずに挑戦して下さい。

株式会社 日建設計 福岡優

協賛:一般社団法人 ランドスケープアーキテクト連盟



一般社団法人ランドスケープアーキテクト連盟(JLAU)は、ランドスケープデザイン実務の専門性を認定された、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)の有資格者と、その活動を支援するステークホルダーにより組織されています。ランドスケープデザインのプロフェッショナルとして、各々の資質向上を目指した自己啓発を行うとともに、交流と学び合いの機会をつくることを目的として2013年5月に発足しました。2016年には、IFLA JAPANとの統合により、幅広い視野を持ちながら国際色豊かな活動へと展開を図っています。



一般社団法人 ランドスケープアーキテクト連盟

[https://jlau.or.jp/app/wp-content/uploads/2022/07/jlau\\_pamphlet.pdf](https://jlau.or.jp/app/wp-content/uploads/2022/07/jlau_pamphlet.pdf)

## 後援:朝霞市

## SUMMER STUDIO 2025 Report

□発行日  
2025年11月10日 発行

□発行・編集  
公益社団法人 日本造園学会 関東支部  
第20回学生デザインワークショップ  
SUMMER STUDIO 2025

担当事務局 (関東支部運営委員)  
須藤伸孝  
木滑公人  
本田亮吾  
渡部美香

まとめ本編集担当  
松野祐太  
中馬啓太  
上林就

□問い合わせ先  
E-mail: ss.jila.kanto@gmail.com